

令和 3 年度

事業報告書

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

目 次

I	はじめに	1
II	令和3年度事業報告【概要】	2
III	令和3年度事業報告	
	ミッション1 気づき・共感を育む	
	福祉の心を育む「ふれあいのまちKOBÉ・愛の輪運動」の推進	7
	ボランティア活動の推進	8
	福祉人材育成のための各種研修事業の実施	11
	情報発信の充実	17
	ミッション2 くらしに寄り添う	
	地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援	19
	児童就学・次世代育成支援	23
	権利擁護に関する取り組み	24
	介護保険サービス等の提供	29
	認知症支援事業	35
	障害者地域生活支援拠点の運営	37
	障がい者のスポーツ・文化の振興	41
	点字図書館の運営	48
	障害者福祉基金を活用した助成事業	52
	神戸ふれあい工房の運営	53
	子ども・子育て支援	54
	地域福祉施設の管理運営	67
	神戸市介護サービス協会事務局の受託	67
	ミッション3 つながり、支え合う	
	地域福祉活動の推進強化	69
	神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営	72
	福祉団体、NPOやボランティアグループへの助成	73
	民間社会福祉施設の振興	74
	多様な福祉活動参加の推進	75
	活動を支える体制の強化	77

I はじめに

本会では、2021 年度（令和 3 年度）から 2025 年度（令和 7 年度）の 5 か年計画として、「“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画 2025」を策定し、次のとおり、ビジョンと 3 つのミッションを定めました。

ビジョン “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり

地域の皆さんの一人ひとりが主役となって、様々な立場の人たちが手を取り合って進める誰もが幸せを感じることができる地域づくり

ミッション “こうべ”の社協が行うこと

気づき・共感を育む

ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み拡げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を拡げます。

くらしに寄り添う

障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。

そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いながら進めます。

生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えていきます。

つながり、支え合う

ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。

人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いながら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人が幸せになる取り組みを進めていきます。

令和 3 年度は、この“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画 2025 の趣旨に基づき、ミッションの達成にむけてそれぞれの関連する事業に取り組みしました。

Ⅱ 令和３年度事業報告【概要】

ミッション１ 気づき・共感を育む

1. 福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

地域福祉への参画を促進するため福祉教育・啓発活動に取り組んだ。

「愛の輪ポスター」の作品募集では、子どもたちが福祉の心を表現したポスターを制作する過程で日々の暮らしの中にある福祉に思いを巡らせ、福祉を身近なものと気付くことをねらいとして応募を募った。新型コロナウイルスの影響により応募数の伸び悩んだ令和２年度に対して、令和３年度は積極的に応募があり、コロナ前（令和元年度）の９割程度に持ち直すことができた。

障がい者に対する理解を深める取組みである「障がいサポーター養成講座」では、出前形式で座学や疑似体験による学びの機会を提供した。令和３年度は新たに「未来言語」というツールを取り入れ、各自が“見えない”、“聞こえない”、“話せない”状態で協力しながら課題に取り組む中で相手の立場に立って考えることの大切さや、日々のくらしでの障がい者への心配りなどについて考える機会とした。

福祉施設での「福祉体験学習事業（ワークキャンプ）」は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら実施に向けた準備を進めた。1,429名の応募と221施設の協力の申し出を得られていたが、直前に感染の第５波の兆しが見られたことから令和２年度に引き続き中止と判断した。

2. 福祉人材育成のための各種研修事業の実施

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

令和３年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた研修の一部を中止することとなったが、令和２年度に引き続き Zoom を使用したオンライン研修を実施した。

また、一部の研修で試行的に YouTube を使った研修動画の配信を行った。YouTube 視聴環境が整備されていない地域活動者の方に対しては DVD を配付するなど、コロナ禍においても学びを止めることがないよう取り組んだ。

認知症高齢者に対する介護サービスの充実に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修「神戸市認知症介護研修」を実施した。

対面での開催が困難であったため、前年度に続きオンラインを中心に研修を実施した。他都市との情報共有によりオンライン研修の設備や技術等を発展させながら、より受講しやすい環境設備を図った。

ミッション2 くらしに寄り添う

3. 地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

〈地域福祉ネットワーク事業〉

生活福祉資金の特例貸付相談を入り口に、収入の減少にとどまらない生活支援を市・区社協で展開した。

相談者の中には従来から課題を抱えている方が多くみられ、相談件数が増加した。これらの相談の中には貸付だけの対応でなく、現行制度では対応が難しい課題が複合化しており、各専門職が連携して個別の課題に対応してきた。

しかし、個別の対応を進めるだけでは根本解決に至ることが難しい事例も多く、新たな仕組みづくりも行った。中でも孤独・孤立の課題を抱えた方や就労の課題を抱えた方を対象とした『居場所』活動が各区に整い、各居場所間の連携も始まっている。

こども食堂や学習支援活動といった『子どもの居場所』の役割について、社会的認知が進んだことにより、支援したいという企業や個人も多くなり、食糧品・日用品の寄付申し出の増に対応し、子ども食堂を支援した。

〈生活福祉資金貸付事業〉

生活に不安を抱えた低所得、障がい者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」では、コロナ禍で増加する教育支援資金をはじめとする貸付相談に対応した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収となった方を対象とする「新型コロナウイルス特例貸付」の申請では、各区社協で相談者が増加し、また複雑化する相談支援を支援するため「特例貸付コールセンター」を運営し、市民からの電話相談や郵送申請受付を実施した。

加えて、実施主体である県社会福祉協議会との連絡調整を担い、区社協に対して情報提供や課題の吸い上げ、県社協への要望を行った。

〈“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業〉

「就活応援プロジェクト」と題し、新型コロナウイルス感染症に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、母子・父子世帯等に相談窓口を通じて就職活動に必要な衣類（スーツやカバン等）の貸し出しを実施主体のNPO法人と行った。

また、地域の居場所応援モデル事業として、休止中のこどもの居場所や高齢者の居場所の再開、新規立上げ、活性化を目的に、寄付いただいた食材と寄付金を活用し、キッチンカーによる温かい食事の提供を行った。

4. 権利擁護に関する取り組み

〈福祉サービス利用援助事業〉

高齢者や障がい者等で判断能力に不安のある方々の権利擁護や財産管理に関する相談、支援を行うほか、福祉サービス利用援助事業を中心とした生活支援サービスを実施した。

新型コロナウイルスの影響により減少した相談件数が回復傾向にあるが、契約件数は平成30年度以降減少傾向が続いている。

コロナ禍で出前講座や研修等が減少し、制度周知が十分に図れていないことや、複合的な課題を抱える利用者が増え、利用につなげるまでの支援者の負担が増大していることから、

相談機能や制度周知を強化し、利用につなげる取り組みを進めることを課題としている。

また、契約後に判断能力が著しく低下し、成年後見制度利用への移行が必要な利用者（契約者の約 10%）について、適切に移行を進めるため、成年後見制度移行促進員を配置し、専門員と連携して移行促進を図り、6 件移行した。

〈成年後見支援センター〉

制度の利用促進のため成年後見制度全般についての無料相談や「神戸市市民後見人」の育成、後見監督を行うなどの活動支援、成年後見制度に関わる諸団体との連携や情報交換、区社協の協力を得て全区で開設している「成年後見制度の利用手続き相談室」の運営など多岐にわたる業務を行った。

相談件数は、新型コロナウイルスの影響により減少していたが、徐々に回復し、令和 3 年度はコロナ禍前の相談件数を上回り、相談需要の高さが伺えた。

また、成年後見制度の円滑な利用を促進し、権利擁護支援策の充実を図るため、市内の高齢者・障がい者の支援機関を対象とした「権利擁護・成年後見制度」の利用支援に関するアンケート調査を実施し、制度の適切な利用に向けた課題の把握に取り組んだ。

本アンケートの結果を受けて、課題の現状把握と求められる機能強化について協議を重ね、令和 4 年度の中核機関の受託に向けて検討をすすめた。

また、高齢者や障がい者の権利擁護支援の推進を図るため、神戸市と金融機関が締結した「高齢者・障害者及びその家族の金銭管理における権利擁護に関する連携協定」に基づき、成年後見制度の利用促進に向けた金融機関との情報連携に取り組んだ。

5. 介護保険サービス等の提供

長田在宅福祉センターにおいて通所介護事業、西在宅福祉センターにおいて認知症対応型通所介護事業を実施した。長田在宅福祉センターにおいては新型コロナウイルス感染者（利用者 1 名、職員 1 名）が発生したため 5/24～6/5 まで自主休業としたほか、初期・若年性認知症特化型通所介護（毎週木曜日）については新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和 3 年度は休止する結果となった。

6. 認知症支援事業

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月 1 回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を立ち上げた。街中のカフェなどを活用して、本人・家族の自己実現、情報交換、レクリエーション、病気や制度についての勉強会を目的に開催した。令和 3 年度はのべ 37 名の参加があった。

7. 障害者地域生活支援拠点の運営

障がい者等やその家族が、安心して生活しつづけるための支援拠点となる「障害者地域生活支援拠点」を運営し、介護者が病気等で急に不在となった障がい者を短期入所に緊急で受け入れるなどの役割を果たした。また、地域で生活する障がい者の見守り体制の構築を進めた。

令和 3 年度は、西区障害者地域生活支援拠点で新たに共生型サービスを開始し、65 歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた 40 歳以上の利用者が、通いなれた事業所

でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施した。

また、須磨区障害者支援拠点においては、新たに夜勤看護師を配置することで支援加算を取得し、短期入所利用者に医療ケアを提供したほか、就労移行支援事業所との連携により、館内の掃除を区内外4事業所とのネットワークを形成し委託。ジョブコーチ無しでの訓練先として実施した。

8. 障がい者のスポーツ・文化の振興

スポーツや芸術などの文化の振興事業を通じて、障がい児・者の健やかな暮らしの支援と社会参加を推進した。また、広報誌やホームページなどによる情報発信やスポーツ大会、作品展の開催などにより、市民との交流を深め、障がいへの理解を広げることに努めた。

スポーツ大会・各種教室ともに年度前半は多くの事業が中止となったが、年度後半から徐々に計画どおり事業を進めることができてきた。東京パラリンピックを契機として障がい者スポーツの普及と啓発を図る一環として11月にしあわせの村で開催した「パラスポーツ王国HYOGO&KOBE 2021」では、約5,000人も参加者が参加した。

9. 点字図書館の運営

視覚障害者情報提供施設として、視覚障害者の生活の自立と社会参加の向上を図り、生活や文化の質が豊かになるように幅広く情報提供を行った。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、緊急事態宣言発令中の約3カ月間については館内での点訳・音訳等の作成を担うボランティア活動や対面朗読サービス、対面による機器相談、中途失明者の点字教室も休止とした。

館内活動が制約された一方、在宅でも作業ができるように工夫するなどした。またコロナ禍であっても可能な限り従来と変わらないサービス提供に努めた。

また、読書バリアフリー法に基づき、読書が困難な障がい者が安心して自立した生活を送れるよう、情報サービスの充実を図ったほか、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、神戸市、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

10. 子ども・子育て支援

〈総合児童センターこべっこランド〉

年度の当初からコロナ禍にあった令和3年度は、臨時閉館や利用人数の制限、講座・イベントの一部中止などを余儀なくされたが、ストレスや悩みを普段以上に抱えていると思われる児童と保護者への支援を途切れさせることのないよう配慮しながら運営した。

〈児童館〉

令和3年度は中央区、兵庫区の児童館指定管理者公募に応募した結果、中央区で4館、兵庫区で4館の指定管理者に指定された。

児童館では、令和2年度から令和3年度にかけて、子育てに関する相談件数が7,214件から9,444件に大幅に増加した。令和2年度は緊急事態宣言発令により、児童館が学童保育クラブの開設のみに限定され、一般来館ができなかったことが影響している。

コロナ禍での“ひとり育児”や子育てに関する情報不足、同世代の子どもを持つ親子との交流やつながりが少ないことによるストレスや不安に寄り添う支援を行った。

ミッション3 つながり、支え合う

1 1. 地域福祉活動の推進強化

区社協との連携として「地域福祉推進基金」を活用し、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った。

また、市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換などを行うことにより、“こうべ”の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性について、共通認識を深めるため、区社協役員協議会を2年ぶりに開催した。

「孤立させない地域づくり」をテーマとした基調講演の他、各区社協の地域福祉ネットワークカーによる事例報告により地域の生活課題についての共有を行った。

1 2. 神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

これまで市社協として取り組む民生委員児童委員活動の推進に加え、令和3年度から新たに事務局の運営を担い、区民児協との連絡調整や資質向上のための研修会等の開催や共済事業などに関する事務を担った。

また今後の民生委員児童委員活動を見据えて、ICT化を推進するため、全地区民児協会長へのタブレット配布の準備に取り組んだ。

1 3. 民間社会福祉施設の振興

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

令和3年度は将来にわたり安定した制度運営を図る目的から、①退職手当給付金額の計算方法の見直し、②退職手当給付金の支払要件の変更、③事務負担金の創設、④運用利率の引き下げといった大幅な制度改定を行い共済財政の改善に取り組んだ。

活動を支える体制の強化

市・区社協事業推進・改善検討会議を開催し、職員採用、人材育成、政策提言・組織改編、児童館の運営について検討を行った。令和3年度は市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、現在の法人運営に関する課題を検討し、令和4年度以降の「(仮称)市・区社協組織体制あり方検討会」の設置に関する提案を行った。

Ⅲ 令和３年度事業報告

ミッション１ 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

(1) ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂：だれもが潜在能力を発揮でき役割を持つてつながり合う地域社会づくり）の理念に基づいた「思いやり」「譲り合い」「助け合い」の福祉の心を育み、ボランティアなどの実践活動に結びつけることを目的とした神戸の市民運動「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」を推進した。

①愛の輪ポスター・障害者週間のポスターの募集

福祉教育の一環として、福祉の心を表現した「愛の輪ポスター」、障がいのある人に対する理解を広めるポスター「障害者週間のポスター」を募集し、福祉に関する啓発を図った。

なお、小学生の部入選作品１点について、神戸市福祉局の依頼によりヘルプマーク啓発ポスターとして起用され、市バス・地下鉄で掲示された。

愛の輪ポスター・障害者週間のポスター

応募総数 603 点（小学生の部 463 点、中学生の部 118 点、高校生の部 22 点）

②愛の輪ポスター・障害者週間のポスター展（入賞作品）

ア．こうべ市民福祉交流センター 令和３年 12 月 4 日（土）～12 月 10 日（金）

イ．神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸内 コスモスギャラリー

令和３年 12 月 7 日（火）～令和４年 1 月 6 日（木）

ウ．花時計ギャラリー

令和４年 1 月 13 日（木）～1 月 19 日（水）

③「愛の輪ポスター、障害者週間のポスター、心の輪を広げる体験作文、表彰式&福祉教育講演会」の開催

実施日 令和３年 12 月 4 日（土）

場 所 こうべ市民福祉交流センター

参加者 70 人

④「温かい手」の発行

愛の輪ポスター・障害者週間ポスターの入賞作品集「温かい手」を 550 部発行した。

⑤高校生介護体験特別事業

神戸市立須磨翔風高等学校を指定（３年間指定の３年目）、年間を通じて介護体験を含む特別事業に助成を行った。

(2) ボランティア・福祉体験学習用資機材の貸出し

市内の学校・事業所等が実施する福祉学習や介護、ボランティア研修を対象に車いす、アイマスクや携帯点字板等の貸出しを行った。

【貸出状況】

(個数)

車いす	アイマスク	白杖	点字板	合計
149	82	82	169	482

(3) ボランティア活動の支援

愛の輪会員の企業・労働組合によるボランティア活動への取り組みを支援し、社会的養護者の自立支援施設等への電気ポットの寄贈や障害者施設への音楽療法用の楽器の寄贈など団体の特色を生かした社会貢献活動の推進に取り組んだ。「こうべ福祉・健康フェア」は感染拡大防止のため令和3年度の開催を見送った。

(4) 障がい者への理解を深める取り組み

各障がいの基本的な知識理解、障がいのある方への配慮や接し方等についての啓発のため、高等学校等に対し「障がいサポーター養成講座」を実施した。

(実施回数 14 回、講座受講 778 人)

六甲アイランド高校・須磨翔風高校の協力のもと、両校の授業時間内で新たに「未来言語」というツールを用いた福祉に関する出前学習・啓発を行った。

(実施回数 4 回、講座受講 66 人) ※2 校の延べ人数

(5) 中・高校生の社会福祉施設での福祉体験学習（ワークキャンプ）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ワークキャンプ及び福祉体験作文の募集を中止した。

(6) 福祉体験事業の実施

①「こべっこマルシェ」（作ろう福祉サービス事業所製品）の実施

福祉の啓発を目的に、小学生が事業所製品を利用者やスタッフと一緒に作成し交流を図るとともにこべっこランドロビーなどで販売活動を行った。

実施日 令和3年11月7日（日）

参加者 児童保護者 27 人 福祉事業所スタッフ 6 人・利用者 12 人

②点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。

	湊川児童館	八雲児童館
実施日	令和3年8月4日（水）	令和3年8月5日（木）
参加者	児童 53 人、職員 6 人	児童 21 人、職員 3 人

(7) 本会運営施設等での福祉学習の推進

①トライやるウィーク 児童館 15 館 86 人

在宅福祉センター 2 人

②視覚障がい学生の職場体験実習 点字図書館（県立視覚特別支援学校）中止

ボランティア活動の推進

(1) ボランティアの支援

①区ボランティアセンターの支援

ボランティア情報システム」の運用を通じて、ボランティアに関する情報管理の効

率化等、区ボランティアセンターの業務支援を行った。

ボランティアコーディネーターの連絡会を月1回開催し、区ボランティアセンター業務に関する情報共有と意見交換を行い、業務の質的向上に取り組んだ。

地域に潜在する元気な高齢者を発掘し、その持てる力（シルバーパワー）を地域で発揮することができるよう、区ボランティアセンターと合同で新たに神戸婦人大学との連携のもと学生のボランティア活動を促すためのオンライン相談会を実施した。

（実施回数：2回 参加者数：25人）

また、神戸市が高齢者の社会参加の促進を目的に令和2年9月から開始した「KOBE シニア元気ポイント制度」に対し、活動者向けの講義を行うなど事業に協力した。

② ボランティアコーディネートの実施

各区ボランティアセンターにおいて、ボランティアの助けを必要とする依頼者の要望等を伺い、その依頼に協力してくれるボランティアを紹介する「ボランティアコーディネート」を実施し、市民によるボランティア活動の推進に取り組んだ。

コーディネート実績（全区計）

	ニード件数	調整完了件数	紹介率
令和3年度	524	397	75.8%
令和2年度	407	345	84.8%

③ 市・区社協ボランティア登録数（令和3年3月末）

	団体登録数	団体所属人数	個人登録数
令和3年度	2,418	105,110	2,274
令和2年度	2,331	99,735	2,039

④ 新型コロナウイルスに係る対応

「with コロナ」におけるボランティア活動の推進のため、ボランティアと依頼者の双方が安心してボランティアセンターへ相談できるよう、活動上の感染症対策に係る留意事項について広く呼びかけを行った。併せて、安心してボランティア活動を継続できるよう、消毒スプレーやメッセージカードの配布を行った。

⑤ 各種ボランティア保険の受付等

ボランティア活動中の事故に備えた、市民活動災害共済等各種ボランティア保険加入受付事務及び連絡調整を行うとともに、市民からの問い合わせ等に対応した。

【ボランティア保険・共済受付状況（兵庫県社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	市民活動災害共済	天災危険補償	行事用保険	合計
件数	96件	1件	11件	108件
加入者数	1,609人	35人	785人	2,429人

【ボランティア保険受付状況（全国社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険	福祉サービス総合保障	合計
件数	5件	22件	15件	42件
加入者数	125人	760人	1,156人	2,041人

⑥ボランティア活動の支援

ア. 神戸市社会福祉協議会ボランティア基金 ボランティアグループ活動助成

ボランティア基金を活用した市内のボランティアグループに対する助成制度を運営し、申請グループに対し助成を行った。(当該制度は市・区間の助成金の不均等の緩和や助成制度の無い区への補完、草の根グループの支援を目的として、令和2年度より区ボランティアセンター登録の団体にも対象枠を拡大)

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、実績日数や対象経費の要件緩和の特例措置を講じて助成を実施した。

申請団体数：95 件 助成団体数：95 件 助成額：1,104,000 円

イ. 県民ボランティア活動助成

ひょうごボランティアプラザが実施する県民ボランティア活動助成について、市内で活動するボランティアグループからの申請受付を行った。

エントリー受付件数：648 件 助成決定件数：470 件

ウ. ボランティアルームの貸し出し

市・区社協登録のボランティアグループを対象に、ボランティア活動や会議に用いるための貸室を管理・運営した。加えて、市社協登録グループに対しては、会報の作成等に使用する輪転機を有料で貸し出しを行った。

エ. 各種ボランティア関係情報の収集・提供

区ボランティアセンターや各団体から寄せられたボランティア募集や講座情報についてこうべ市民福祉交流センター内のパンフレットラックや本会ホームページを用いて発信した。

(9) 被災地支援事業の実施

①区社協との災害ボランティアセンター設置訓練の実施

災害の発生から災害ボランティアセンターの設置完了までの流れを確認するため、中央区社会福祉協議会との合同訓練を実施した。

近年、毎年のように発生する豪雨災害を想定し、コロナ禍であることを踏まえて Zoom を用いて遠隔実施を行った。

日 時：令和4年2月22日(火)14:00～16:00

参加者：神戸市社会福祉協議会・神戸市中央区社会福祉協議会、
神戸市中央区役所まちづくり課

②大学と連携した災害ボランティア事業

被災地支援活動の一環として、大学コンソーシアムひょうご神戸との共催で「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」を実施した。

期 間：令和3年7月1日(木)～令和4年3月31日(木)

活動先：宮城県（東日本大震災）、長野県（令和元年台風第19号災害）、岡山県（平成30年7月豪雨災害）、熊本県（熊本地震災害、令和2年7月豪雨災害）

参加者：学生26人、スタッフ15人

(10) 地域福祉活動の担い手の育成

①総合児童センター

子どもの遊びをサポートすることを目的に例年大学生、社会人、中高生ボランティアがイベントの運営補助や自主企画イベントを実施した。

また、発達障がいボランティアサポート事業の修了者が療育サポーターとして療育指導事業で活動した。(延べ活動人数 739 人)

②児童館

絵本の読み聞かせ、人形劇、将棋教室等の協力など、ボランティアとの協働により、魅力ある児童館活動の展開を図った。(延べ 3, 257 人※学童保育コーナー含む)

③在宅福祉センター

デイサービスでの利用者との話し相手や行事のお手伝いなど、ボランティアを積極的に受け入れていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必要最小限にとどめることとなった。(延べ 963 人)

④障害者スポーツ振興センター

障がい者のスポーツ大会運営やスポーツ教室の協力を通じて障がい者のスポーツに関わっていただくため、登録ボランティアである「障害者スポーツリーダー」と協働して事業を推進した。(延べ 152 人)

⑤点字図書館

点訳・音訳及びテキストデジタイズのボランティアを育成し、蔵書の製作やプライベートサービス・公的情報の点訳・音訳依頼等に、ボランティアグループと協働して取り組んだ。(162 人)

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

(1) 市民福祉大学の運営

市民の福祉に関する理解と参加を促進するとともに、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るため、市民福祉大学の運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により計画していた研修の一部を中止することとなったが、昨年度に引き続き Zoom を使用したオンライン研修を実施し、一部の研修で試行的に YouTube を使った研修動画の配信を行った。YouTube 視聴環境が整備されていない地域活動者の方に対しては DVD を配付し、コロナ禍においても学びを止めることがないよう研修を提供した。

《研修・講座の実施実績》

区 分	開催講座数	講座日数	参加者	延べ参加者
社会福祉事業従事者研修	39 講座	47 日	1, 211 人	1, 324 人
市民対象講座	7 講座	30 日	210 人	640 人
地域活動者対象研修	10 講座	7 日	317 人	317 人
区ボランティアセンター実施講座	79 講座	421 日	2, 078 人	4, 755 人
合 計	135 講座	505 日	3, 816 人	7, 036 人

《YouTube 動画配信実績》

区 分	講座数	動画配信日数	動画再生回数
社会福祉事業従事者研修	1 講座	15 日	133 回
市民対象講座	1 講座	31 日	398 回
地域活動者対象研修	3 講座	90 日	749 回
合 計	5 講座	136 日	1,280 回

①社会福祉事業従事者対象研修の実施

新任職員から管理職員までがキャリアビジョンを描き、必要な学びや成長を得ることを目指した研修を実施した。今年度はコロナ禍で職員にストレスが溜まる状況を踏まえ「ストレスケア」「モチベーションマネジメント」「悪質クレーム対応」の各研修を実施した。また、階層別研修とは別に「記録の書き方」や「薬の知識」など職員として基礎的な知識を得ることができるような研修を設定した。

研 修 名		実施日	参加者	延べ参加者
共通研修	悪質クレーム研修	8 月 16 日	78 人	78 人
	ストレスケア研修	9 月 16 日	16 人	16 人
	モチベーションマネジメント研修	11 月 5 日	16 人	16 人
	記録の書き方研修	2 月 15 日	48 人	48 人
新任研修	現場で使えるマナー研修	4 月 28 日	39 人	39 人
	キャリアビジョンと倫理観	5 月 25 日	14 人	14 人
	老人福祉施設職員研修	6 月 16 日	24 人	24 人
	児童福祉施設職員研修	7 月 7 日	25 人	25 人
	保育教諭・保育士研修（2 コース）	6 月 14 日・6 月 16 日	54 人	54 人
	障がい福祉施設職員研修	11 月 19 日	42 人	42 人
中堅研修	フォロワーシップと後輩指導研修	8 月 19 日	65 人	65 人
	老人福祉施設職員研修	12 月 6 日	26 人	26 人
	児童福祉施設職員研修	3 月 11 日	26 人	26 人
	保育教諭・保育士研修	10 月 12 日	24 人	24 人
	障がい福祉施設職員研修	3 月 10 日	24 人	24 人
	障がい者施設職員スキルアップ研修	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
	更生福祉施設職員研修（2 コース）	6 月 30 日・3 月 4 日	45 人	45 人
	ICT を活用したスキルアップ・福祉の仲間づくり研修（高齢者福祉施設対象）	10 月 22 日～2 月 18 日 （4 日間）	7 人	26 人
主任者・管理職	キャリアビジョンと倫理観	7 月 27 日	45 人	45 人
	人材育成とその指導法	2 月 24 日・2 月 25 日	22 人	44 人
	リスクマネジメント研修	9 月 29 日	79 人	79 人
	リーダーシップ向上研修	10 月 25 日	44 人	44 人
専	介護技術講座	12 月 10 日	43 人	43 人

医学講座	1 月 18 日	45 人	45 人
栄養士・調理員（保育園・認定こども園）対象研修（2 コース）	1 月 28 日・2 月 24 日	38 人	38 人
調理技術講座（児童施設）	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
虐待防止研修（2 コース）	11 月 24 日・11 月 26 日	115 人	115 人
虐待防止研修（動画配信）	12 月 13 日～12 月 27 日	YouTube 再生回 133 回	
事務職員講座 総務編	4 月 20 日	20 人	20 人
事務職員講座 経理＜超初級編＞	11 月 30 日	26 人	26 人
事務職員講座 経理＜基礎編＞	7 月 29 日	33 人	33 人
事務職員講座 経理＜実践編＞	11 月 1 日	21 人	21 人
事務職員講座 経理＜決算編＞	2 月 7 日	24 人	24 人
事務職員講座 ＜介護請求事務編＞（2 コース）	8 月 31 日・2 月 8 日	53 人	53 人
面接相談スキルアップ①	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
面接相談スキルアップ②	2 月 15 日・3 月 1 日・ 3 月 15 日	12 人	35 人
面接相談入門コース（3 コース）	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
対人援助のスーパービジョン スーパーバイザー養成講座	12 月 24 日・1 月 7 日 1 月 21 日・2 月 4 日	18 人	67 人
合 計		1,211 人	1,324 人
		YouTube 再生回数 133 回	

②市民対象講座の開催

ア．ボランティア講座等の開催（計 26 日開催）

講座・研修名	実施日	参加者	延べ参加者
手話ボランティア養成講座基礎編（朝クラス）	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
手話ボランティア養成講座基礎編（夜クラス）	10 月 13 日～3 月 16 日 (20 日)	15 人	268 人
精神保健福祉ボランティア講座	9 月 7 日・9 月 24 日 10 月 7 日・10 月 19 日	63 人	222 人
視覚障がい者のためのガイドボランティア講座	11 月 18 日・11 月 25 日	19 人	37 人
合 計		97 人	527 人

イ．市民活動・啓発講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者	延べ参加者
市民福祉セミナー「こども・若者ケアラー（ヤングケアラー）の現状と支援の課題～当事者主体の支援に向けて～」	3 月 14 日 (YouTube 動画視聴期間 3 月 28 日～4 月 28 日)	53 人	53 人
特別講座「子育てコーチング」	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		

地域人材育成研修① 「地域・福祉・活動の基本を学ぼう！」	7月6日	17人	17人
地域人材育成研修② 「協働の作法を学ぼう！」	8月4日	14人	14人
地域人材育成研修③「地域の課題を探 り、解決する方法を学ぼう！」	10月8日	29人	29人
合 計		113人	113人
		YouTube 再生回数 398 回	

③地域活動者研修の実施

ア. 民生委員・児童委員研修の実施

研 修 名	実施日	参加者
新任研修（2 コース）	9月14日 (Zoom によるオンライン研修)	19人
	3月8日～3月22日 (動画視聴期間)	23人
中堅研修	11月1日～11月30日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 35 件
		YouTube 再生回数 418 回
地区民児協会長研修	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	
主任児童委員研修	2月15日～3月15日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 4 件
		YouTube 再生回数 185 回
児童委員研修	3月1日～3月31日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 17 件
		YouTube 再生回数 146 回
スキルアップ研修①A コース	6月25日	47人
スキルアップ研修①B コース	6月25日	38人
スキルアップ研修②A コース	12月8日	45人
スキルアップ研修②B コース	12月9日	49人
合 計		対面研修受講者 179 人
		オンライン受講者 42 人
		DVD 貸出 56 件
		YouTube 再生回数 749 回

イ. 心配ごと相談所相談員研修会の実施

区社協が開設している心配ごと相談所の相談員を対象に、相談所機能の充実を図るため研修を実施した。(令和4年2月9日 参加者 40人)

④区ボランティアセンター研修事業

地域に根ざしたボランティアの育成や活動者のスキルアップを目的に、各区ボランティアセンターで各種研修を実施した。

区社協名	講座数	講座延べ日数	参加者	延べ参加者
東灘	6	53 日	96 人	496 人
灘	10	18 日	555 人	736 人
中央	6	30 日	71 人	344 人
兵庫	5	47 日	78 人	78 人
北	9	16 日	238 人	360 人
北神	5	32 日	82 人	147 人
長田	12	79 日	456 人	778 人
須磨	8	49 日	140 人	446 人
垂水	9	60 日	150 人	794 人
西	9	37 日	212 人	576 人
合計	79	421 日	2,078 人	4,755 人

⑤福祉ライブラリーの運営

福祉の専門図書、DVDなどを揃えた福祉ライブラリーを運営し、書籍・雑誌・資料・DVDの閲覧、視聴や貸出しを行った。感染症対策のため新たに図書除菌機を設置した。

・書籍収蔵数	9,134 冊
・DVD・ビデオ収蔵数	1,011 点
・資料収蔵数	945 冊
・雑誌収蔵数	547 冊 (19 タイトル)
・年間来室数	7,371 人
・貸出カード発行数	131 枚
・書籍・DVD貸出数	2,211 点

⑥研修に係る情報提供

研修に関する情報提供を実施した。また、福祉ライブラリーニュースを刊行し福祉関係の新作書籍、DVD等について情報提供を行った。

・福祉ライブラリーニュース 年1回発行

(12) 認知症介護実践者等養成研修事業

①神戸市認知症介護研修(従事者対象研修)

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での開催が困難であったため、前年度に続きオンラインを中心に研修を実施した。他都市との情報共有によりオンライン研修の設備や技術等を発展させながら、より受講しやすい環境設備を図った。

研修名	内 容	開催日程・修了者数
認知症介護 実践者研修	認知症高齢者の介護実務者を対象とした 認知症介護に関する実践研修	① 5月18日～8月17日 (オンライン)・46人 ② 7月29日～10月14日 (オンライン)・51人 ③ 9月9日～12月2日 (オンライン)・49人 ④11月11日～2月3日 (オンライン うち 12/14 のみ 集合)・61人
認知症介護 実践リーダー研修	介護実務者の指導的立場にある者を対象 とした指導者養成研修	10月8日～2月1日 (オンライン)・38人
認知症介護 サービス事業開設 者研修	認知症介護を提供する事業所代表者を対 象とした基本的な知識及び介護サービス 事業の運営に必要な知識修得のための研 修	11月5日、11月11日 (オンライン)・5人
認知症 対応型サービス 事業管理者研修	認知症介護を提供する事業所管理者等を 対象とした適切なサービスの提供に関す る知識修得のための研修	① 6月30日、7月9日 (オンライン)・27名 ②11月5日、11月8日 (オンライン)・21人
小規模多機能型サ ービス等計画作成 担当者研修	小規模多機能型居宅介護支援事業所計画 作成者を対象とした利用者及び事業の特 性を踏まえた事業計画を作成するために 必要な知識・技術の習得のための研修	① 7月20日、7月28日 (オンライン)・15人 ② 1月19日、1月27日 (オンライン)・11人
認知症介護指導者 養成研修	認知症介護実践研修を企画・実施すると ともに介護保険施設等における介護の質向 上、地域資源の連携体制構築の推進等に必 要な能力を身につけ、地域全体の介護サー ビスの充実を図ることを目的に養成	①9月27日～11月26日 ※開催中止 ②12月13日～2月18日(集 合・オンライン)受講者なし
認知症介護指導者 フォローアップ研 修		①7月29日～8月6日(オンラ イン型)受講者なし ②2月21日～3月1日(オンラ イン型)受講者なし

②神戸市認知症研修(市民対象研修)

ア．認知症サポーター養成講座(155回・4,483人)

認知症に関する正しい理解を深め、認知症の人とその家族を支援する協力者を育成するため、市民や企業等を対象とした神戸市認知症研修の相談受付、講師調整等を行った。また、市内の各区で研修を開催した。(145人受講、長田区・灘区は緊急事態宣言により中止)

③キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師（キャラバン・メイト）の養成や、スキルアップ研修の実施、連絡会開催等により、研修内容の充実に努めた。

研 修 名	開催日程・受講者数	受講者数
キャラバン・メイト養成研修	11 月 17 日	24 人
認知症サポーター養成講座実施説明会	12 月 10 日	20 人

④若年性認知症研修

ア．神戸市若年性認知症デイサービス・デイケア職員研修

デイサービスやデイケア等の職員の方に、若年性認知症の方へ支援するために必要な情報を提供し、若年性認知症の方の居場所拡大を目的にした研修。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度開催中止。

イ．神戸市若年性認知症支援者研修

市内支援者が、若年性認知症の正しい理解をもち、若年性認知症の人が直面する様々な課題を考え、どう支援に結びつけていくのかを考える機会として開催した。

対象者 市職員、あんしんすこやかセンター職員、えがおの窓口職員

地域での活動をする市民、認知症本人と家族の方、社会福祉協議会職員

実施日 令和4年 3月 24日

参加者 93人

情報発信の充実

(1) ホームページの機能拡充・強化

行事、イベントなど本会事業の最新情報を発信した。（ページ閲覧回数 485,439 件/年）市内の「with コロナ」に対応した活動事例を紹介し、“新しい地域福祉活動のカタチ”を広げる試みとして、ホームページ上に「R e³（れれれ）大作戦」と称したコーナーを設け、コロナ下における活動アイデアの共有に取り組んだ。

市民福祉大学では、ヒューマンサービスコースにおいて、ブログを活用して講座の特色、内容や受講生の感想を発信することにより、広く市民の受講を促した。

総合児童センターでは、キャラクター「カーモ」を活用した YouTube チャンネル「カーモチャンネル」をホームページ上に新規開設し、在宅でも楽しめる親子遊びやダンス、工作などの遊びを発信した。

(2) ソーシャルネットワークサービス (SNS) を活用した情報発信

Facebook や YouTube を活用した本会事業や地域活動情報の発信を行った。

また、YouTube においては内外に向けたオンライン研修や説明等にも活用した。

【Facebook 年間利用状況】記事投稿件数 86 件、記事閲覧回数 19,115 回

【YouTube 年間利用状況】動画投稿件数 25 件、動画視聴回数累計 3,500 回

※限定公開分含む

(3) 情報紙「きずな・KOBÉ」の発行

市民に親しまれる福祉の情報紙として、「きずな・KOBÉ」を発行した。多くの市民の

目に触れるよう金融機関や病院等へ配布し福祉啓発に努めた。

年 1 回（令和 3 年 12 月発行、計 15,000 部）

(4) 機関紙の発行

- ・「神戸市ファミリー・サポート・センター通信」（2 回、各 5,700 部）
- ・「福祉ライブラリーニュース」（3 回、各 3,500 部）
- ・「児童館だより」（月 1 回、各児童館で発行）
- ・「拠点児童館ニュース」（2 回、各 5,000 部）
- ・「学童保育だより」（各児童館、各学童保育コーナーで随時発行）
- ・各在宅福祉センターで発行する機関紙「すずらんだより」「サルビアだより」「まのしんようネット」「こすもんレター」「なでしこホッと 通信」「スマイルなでしこ」
- ・「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」（4 回、各 1,600 部）
- ・「点字図書館だより」（6 回、各 墨字版 282 部、点字版 191 部、デイジー版 147 部）
- ・若年性認知症交流会広報紙「おひさまだより」（3 回、各 1,000 部）

(5) 各種の行事・講座の案内、パンフレット等の発行

- ・「こべっこランド講座・イベント案内」（8 回 23 万部）
- ・各所属が開催した各講座案内等

ミッション2 くらしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

(1) 地域福祉ネットワーク事業の推進

①「地域生活課題への対応と地域での支え合いのしくみづくり」

区社協に配置している地域福祉ネットワークカーが、くらし支援窓口と連携しながら、様々な生活課題の解決・支援に向けて、地域住民組織と関係機関のネットワークを構築しながら、地域での支え合いのしくみづくりを進めた。

(生活課題への支援回数：9,512回 前年度比：95回増)

(支援世帯数：2,176世帯 前年度比：179世帯増)

②「地域福祉ネットワーク事業」における区社協支援の推進

地域福祉ネットワーク事業に関わる職員が相互に連携し、情報を共有するための「地域福祉ネットワーク事業担当者連絡会」を開催した。市・区社協の連携と役割分担のもと、より効果的に事業を展開した。

また、地域福祉ネットワークカーと生活福祉資金貸付担当者による合同研修も行った。今後も、生活福祉資金を入口とする困難ケースに区社協全体で連携し取り組む体制の構築を進めていく。

本会善意銀行の活用により緊急的な食糧の購入・備蓄を行い、区社協からの要請に応じて食糧提供を行う「食のセーフティネット事業」を実施した。

(支援回数：425回 前年度比：188回増)

そのほか、コロナ禍により生活が厳しいや留学生や大学生、シングルマザー等に対し、セブン-イレブン・ジャパン及びその他企業、団体から寄贈された食料品や生活必需品を活用して支援を行った。

③身近な地域での「居場所」づくり

社会的な孤立を背景として、生活課題を抱える市民を支援することを目的に、各区では、地域とのつながりや役割を感じられる居場所や、就労に向けた体験の場づくりをすすめている。居場所の意義や必要性を学べる研修、実際の進め方や効果等の情報共有を行い、区の特徴を活かした居場所の全市展開につながった。

区	事業名	開催場所	開催日時
東灘	えんがわ事業 あおいかめ	カフェ・やすらぎ	第2・4火曜日
	お役立ち隊	ボランティアルーム	毎週水・金曜日
灘	トゥーリートゥーリー	灘区役所	第1・3水曜日
	ほっとウィズ	南八幡会館	第2・4金曜日
中央	あおい製作所	市営磯上住宅集会所等 (出張開催あり)	毎週水曜日 (出張は随時開催)
兵庫	さんばみちクラブ	ボランティアルーム	第3水曜日
	おどり場	区内事業所	不定期

区	事業名	開催場所	開催日時
北	ふらっとホーム	本区：ボランティアルーム	第 3 水曜日
		北神：おくっちょ	第 1 水曜日
	ふらっとホーム 「作業プログラム」	本区：ボランティアルーム 北神：北神区役所会議室	それぞれ月 2 回
	ふらっとカフェ	ボランティアルーム他	不定期
長田	ぺだる	ボランティアルーム	毎週金曜日
須磨	コスモスのたね	地域活動支援コーナー	第 2 木曜日
垂水	ひきこもりの方の家族のつどい	café iiyo	第 2 月曜日もしくは、水曜日
	いかなご倶楽部	垂水区役所	第 4 火曜日
西	やりがい・いきがづくりルーム	西区役所	月 2 回水曜日

④ “コロナ禍” の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業

区社協において、前年度区社協の特別緊急支援として助成した財源を活用した事業を実施する他、新たな活動メニューを増やし、コロナ禍の影響を受けた個人や地域活動の支援に取り組んだ。

ア. 各区社協助成事業

区	事業の実施目的	使途	所要経費
中央	コロナ禍でのつながり支援及び地域活動再開の後方支援を行うことを目的に実施	消耗品、備品など	700,000 円
兵庫	With コロナを意識した給食会及び地域の居場所への支援	衛生グッズ（マスク、手袋など）、安心グッズ（間仕切り用ビニールカーテンなど）	700,000 円
北	ふれあい給食グループに感染予防グッズを配布して、コロナ禍での給食会活動（再開）を支援	アクリル製仕切り板、足踏み式消毒スタンド、フェイスガード、障害者事業所商品（石鹸・マスク・ふきん）など	537,357 円
長田	区社協による地域福祉活動・ボランティア活動の再開支援	個包装マスク、消毒用オートディスペンサー、替え用消毒液、非接触型体温計	640,000 円
須磨	新型コロナウイルス感染症対策のため、活動への金銭的負担が増え、継続が難しくなったボランティア活動を助成金により支援	コロナ等感染対策グッズ購入費用助成、活動資金助成	236,876 円

区	事業の実施目的	使途	所要経費
垂水	ひとり親世帯へ食料品を提供することを通して、コロナ禍で生活に困窮する世帯を把握し、必要な支援につなげることを目的とする。	食料品購入費、配送料など	700,000 円
西	区内の健康づくりグループやボランティア活動者へ活動再開支援に向けた感染予防の備品整備、また、リモートの環境整備による新たな活動の支援	感染予防備品購入費、リモート関連機材購入費	700,000 円

イ. 就活応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症に伴い、離職を余技なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、母子・父子世帯等に相談窓口を通じて、就職活動に必要な衣類(スーツやカバン等)の貸し出しを実施主体の NPO 法人と行った。

【協働団体】 2 団体 【スーツ貸出件数】 15 人

ウ. 地域の居場所応援モデル事業 キッチンカーの運営協力

休止中のこどもの居場所や高齢者の居場所の再開、新規立上げ、活性化を目的に、寄付いただいた食材と寄付金を活用し、キッチンカーによる温かい食事の提供を行った。

実績数 こどもの居場所 6 台、高齢者ふれあい給食会 21 台

(2) 生活困窮者の自立・社会的孤立への対応

社会的な孤立を背景とする生活困窮者の自立に向けた生活支援を推進するために、区社協と各区役所に設置されている「暮らし支援窓口」とが連携し、関係機関や地域住民等とのネットワークによる支援体制を構築し、生活課題の把握や解決に取り組んだ。

(3) 生活福祉資金貸付

生活に不安を抱えた低所得、障害者及び高齢者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」について、実施主体である兵庫県社会福祉協議会との連絡調整を行い、申請窓口となる区社協の支援を行った。相談対応を行う区社協では、生活課題解決に向け、地域福祉ネットワーク事業をはじめとする区社協事業との複合的な支援や区に設置されている暮らし支援窓口との連携した支援を行った。

また、新型コロナウイルスの影響を受け減収となった方を対象とした「新型コロナウイルス特例貸付」の申請受付(令和2年3月25日開始)を各区社協で行った。市社協では「特例貸付コールセンター」を運営(令和3年12月末で終了。各区社協を通じた郵送申請受付のみ継続)し、市民からの電話相談や郵送申請受付を実施した。

増加・複雑化する生活福祉資金の相談対応を支援するため、市社協では区社協の資金担当者会議を開催し情報共有や課題の吸い上げを行い、必要に応じ兵庫県社会福祉協議会に対し要望調整を行った。

貸付種別	相談件数	貸付決定件数	貸付額
教育支援資金	10,047 件	538 件	383,542,800 円
福祉資金	31,388 件	51 件	5,678,000 円
緊急小口資金		35 件	2,746,000 円
緊急小口資金 (新型コロナウイルス特例貸付)		6,411 件	1,226,780,000 円
総合支援資金	18,047 件	0 件	0 円
総合支援資金 (新型コロナウイルス特例貸付)		15,242 件	9,801,190,000 円

(比較 令和 2 年度実績)

貸付種別	相談件数	貸付決定件数	貸付額
教育支援資金	8,355 件	518 件	363,024,200 円
福祉資金	75,998 件	52 件	15,178,400 円
緊急小口資金		54 件	4,195,000 円
緊急小口資金 (新型コロナウイルス特例貸付)		24,882 件	4,423,565,000 円
総合支援資金	37,148 件	5 件	2,267,000 円
総合支援資金 (新型コロナウイルス特例貸付)		15,231 件	16,930,430,000 円

※新型コロナウイルス特例貸付は、受付開始の令和 2 年 3 月 25 日からの実績を集計。

※緊急小口資金 新型コロナウイルス特例貸付額については、近畿ろうきん・日本郵便（株）からの申請分を含む。

(4) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

経済的に厳しい状態にあるひとり親家庭の自立促進を支援することを目的に、神戸市からひとり親家庭高等職業訓練促進給付金を受ける世帯を対象として、看護師や介護福祉士などの資格を取得するための養成機関に入学する際の準備金（上限 50 万円）及び取得した資格を活かして就職する際の準備金（上限 20 万円）の貸し付け（5 年間の就労により償還が免除）を行った。

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	7 件	6 件	3,000,000 円
就職準備金	29 件	27 件	5,400,000 円
計	38 件	33 件	8,400,000 円

(比較 令和 2 年度実績)

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	9 件	9 件	4,500,000 円
就職準備金	34 件	25 件	5,000,000 円
計	43 件	34 件	9,500,000 円

児童就学・次世代育成支援

(1) 児童福祉基金を活用した児童就学支援

① 唐川修学助成金による施設入所児童への高校修学助成

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、高校に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和3年度	16件 1,670,000円	令和2年度	25件 2,460,000円
-------	----------------	-------	----------------

② 民間社会福祉団体への事業助成

市域を対象とする児童健全育成事業に対し、助成を行った。

令和3年度	7件 560,000円	令和2年度	5件 380,000円
-------	-------------	-------	-------------

③ 生駒大学入学一時金給付事業

児童福祉施設、母子生活支援施設に在籍中の児童、または里親家庭に委託されている児童に対し、大学に進学する際の入学一時金として、1名につき30万円を給付した。

令和3年度	13件 3,900,000円	令和2年度	7件 2,100,000円
-------	----------------	-------	---------------

④ 「生駒温子」児童福祉事業助成

次世代を担う児童の健全育成とすべての児童が幸福に成長できる環境づくりを推進するために、民間福祉団体が実施する事業・活動への助成を行った。そのうち公募助成では、こどもと大人の交流事業や子育て支援事業などの事業に対して助成した。

令和3年度	12件 2,310,000円	令和2年度	10件 1,931,000円
-------	----------------	-------	----------------

経済的な理由により修学困難な私立高校に在籍する生徒の支援を目的に神戸新聞厚生事業団が実施する「ひまわり奨学金」事業に対して助成した。

令和3年度	2,400,000円	令和2年度	2,400,000円
-------	------------	-------	------------

⑤ SOCIO-R00TS 事業助成

三菱電機 SOCIO-R00TS 基金からの寄付を活用し、支援の必要な児童を対象に、地域に根ざした事業として、学校に行っていない小中学生を対象とした居場所の環境整備に対して助成を行った。

令和3年度	4件 500,000円	令和2年度	0件 円
-------	-------------	-------	------

(2) 善意銀行を活用した児童就学支援

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、専修学校等に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和3年度	7件 2,100,000円	令和2年度	9件 2,700,000円
-------	---------------	-------	---------------

(3) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

内 容 児童福祉基金、障害者福祉基金を活用して、次世代育成支援及び障がい者の社会参加支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

事業実績 109施設・団体 助成金額 2,154,605円

権利擁護に関する取り組み

(1) こうべ安心サポートセンター

①権利擁護全般に関する相談

認知症高齢者や知的・精神障がい者など判断能力が十分でない方が生活の中で受ける権利侵害や財産管理に関する不安や困り事などについて、精神保健福祉士や社会福祉士などの専門相談員が相談に応じた。

		令和3年度	令和2年度
電話・面談等相談		1,290件	1,275件
	認知症高齢者	358件	319件
	知的障がい者	93件	90件
	精神障がい者	618件	653件
	その他	221件	213件
権利擁護法律相談		26件	27件

②障がい者あんしんネットワーク事業

精神障がい者の人権や権利を擁護するため、市内の社会復帰施設や障がい福祉サービス事業所、精神科病院の入・通所者等を対象に、日常生活上の悩みや疾病や障がい、施設等での生活上の問題などについて相談に応じた。

	令和3年度	令和2年度
相談件数（※）	286件	319件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,290件に含まれており、再掲。

③福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

判断能力が十分でないなどの理由により日常生活に支障のある認知症等高齢者や知的・精神障がい者を対象に、①福祉サービスの利用に関する情報提供、②生活に必要な預貯金の払出・預入及び日常の金銭管理、③預貯金通帳や有価証券等の貸金庫での預かり等の支援を実施し、定期的な訪問による見守りを実施した。施設入所や本人管理、親族管理等による解約に至るケースに関して、本サービス終了後の本人の生活に考慮して関係者と協議を行い、円滑な移行ができるよう調整した。

さらに、サービスを利用する中で判断能力が低下した利用者については、成年後見支援センターとの連携により、成年後見制度への移行を進めた。（6件）

【相談・調査の状況】

	令和3年度	令和2年度
相談受付件数（※）	618件	602件
調査申込件数	186件	126件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,290件に含まれており、再掲。

【契約の状況】

		令和 3 年度	令和 2 年度
当該年度末契約件数		570 件	589 件
(うち当該年度新規契約件数)		95 件	98 件
内 訳	認知症高齢者	288 件	307 件
	知的障がい者	107 件	104 件
	精神障がい者	151 件	149 件
	その他	24 件	29 件
当該年度解約件数		114 件	127 件
当該年度末契約累積件数		2,465 件	2,370 件

④市・区社協職員向け権利擁護研修会

社協職員が備えておくべき権利擁護に関する知識や考え方を学ぶ研修会を開催した。

テーマ 「地域福祉からみる権利擁護研修～住民の生活を護ること～（基礎編）」

講 師 神戸女子大学健康福祉学部 教授 植戸 貴子氏

実施日 令和 4 年 1 月 28 日（金）

参加者 21 名

⑤福祉施設向け財産管理監査サービス事業

入所者財産を管理している老人福祉施設を対象に、施設入所者が安心して財産管理を託し、施設にとっても社会的信頼を確保することができるよう、①財産管理に関する相談、②公認会計士による監査サービスを実施した。

	令和 3 年度	令和 2 年度
当該年度利用件数	7 件	7 件

⑥高齢者くらしの充実資金貸付事業（リバースモーゲージ）

自宅に住み続けながら、その住まいを不動産担保として生活資金融資を受けた高齢者世帯（1 件）を対象に、利子貸付を行った。

※平成 9 年 12 月から開始した「被災高齢者向け終身生活資金貸付事業」を平成 13 年から対象を拡大して「高齢者くらしの充実資金貸付事業」として実施。同様の事業を民間金融機関等が行うようになったため、平成 21 年度末で新規契約の受付を終了。

⑦こうべ安心サポート委員会等の開催

認知症高齢者、知的・精神障がい者など判断能力の十分でない方の権利を尊重し擁護するとともに、特に専門的な助言を要する場合に対応を協議するなど、これらの人々の立場に立った支援を行うことを目的として設置した「こうべ安心サポート委員会」等を開催した。

ア. こうべ安心サポート委員会

開催回数 1 回

議題 専門部会の活動報告、成年後見支援センターの活動状況、
こうべ安心サポートセンターの活動状況等

イ. 安心生活支援部会・成年後見判定部会

- 開催回数 11 回
 議題 成年後見の市長申し立てに対する助言 59 件
- ウ. 権利擁護事業部会
- ・ 事業運用審査委員会
 開催回数 6 回
 議題 福祉サービス利用援助事業に関する審議 6 件、助言 8 件
 - ・ 監査委員会
 開催回数 1 回
 議題 福祉サービス利用援助事業・法人後見事業の利用者の財産管理監査
- エ. 市民後見部会
- 開催回数 6 回
 議題 成年後見支援センターの運営、市民後見人養成研修、市民後見活動等に関する助言
- オ. 神戸シルバー法律研究会事務局事業
- 高齢者・障がい者等の権利擁護に関する調査・研究及び成果の発表を行うことを目的とした「神戸シルバー法律研究会」の事務局事業を実施した。
- 会員 弁護士、医師、福祉関係者、行政関係者等 33 人（令和 3 年度末）
 活動実績 月例会 10 回、運営委員会 2 回、9 月にシンポジウム「成年後見と自己決定」～まわりが勝手にきめちゃっていいの！？～を開催した。

(2) 神戸市成年後見支援センターの運営

成年後見制度に関する相談や申立書類の書き方、手続に関する説明や助言など申立支援等に関する相談援助を行った。また、後見をめぐる親族間のトラブルを抱える事例、複雑な権利関係の整理を要する事例、法的対応を要する事例など、専門的知識を要するケースについては弁護士、司法書士、社会福祉士の専門職が相談に応じた（2 職種 1 組でそれぞれ月 2 回）。

		令和 3 年度	令和 2 年度
電話・面談等相談		1,287 件	1,105 件
相談 内容	成年後見制度（全般）	581 件	586 件
	任意後見制度	127 件	102 件
	申立方法について	261 件	145 件
	申立支援の依頼	10 件	16 件
	権利侵害等の相談	18 件	13 件
	後見人（親族等）の困りごと	18 件	32 件
	制度に対する苦情・困りごと	43 件	—
	センター業務について	229 件	211 件
成年後見専門相談（再掲）		55 件	66 件

①神戸市市民後見人の選任と活動の監督支援

第三者後見の新たな担い手として、判断能力が十分でない人の生活を一般市民が社会貢献という立場で支援する市民後見人の第 7 期養成研修を開催した（修了者 12 名）。研修を修了し、登録した市民後見人には研修等を実施し、制度に関する知識の習得や市民後見人同士の交流を促進し資質向上に努めた（市民後見人候補者登録者 96 名）。

また、受任調整により神戸家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦し、後見活動開始後は監督支援を継続的に行うとともに、後見活動を終了した市民後見人に対し、事務局長感謝状を贈呈した（8名）。

（市民後見人の活動状況）

・市民後見人候補者の総選任件数（累計）92件（うち令和3年度中の選任件数0件）

・市民後見人の活動件数24件（うち本会の後見監督件数23件、専門職複数1件）

市民後見人 に対する相談 対応件数	相談の内容（重複あり）				
	報告書 作成	福祉・介護 サービス	終了・辞任に ついて	対象者の 理解と支援	財産管理 金銭管理
2,152件	291件	75件	109件	58件	157件
	医療	選任までの 支援	居住・地域と の連携	所得・収入・債務	センター事業 等について
	142件	35件	63件	16件	1,206件

②市民後見人による地域における相談機能・広報機能の充実の取り組み

ア. 成年後見制度の利用手続き相談室

各区社協の運営協力を得て、市民に身近な区役所で成年後見制度の相談に応じる「成年後見制度の利用手続き相談室」を全区で開催し、市民後見人候補者を相談員として派遣した（46名）。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の期間中は、区役所での対面相談から成年後見支援センターへの電話相談へ実施方法を変更し、コロナ禍での市民の相談機会確保に取り組んだ（年間相談件数67件／開設日135日）。

イ. 市民後見人による広報啓発活動

新型コロナウイルス感染拡大による地域からの講義依頼の減少をふまえ、成年後見制度利用促進に向けた新たな広報啓発のあり方を検討する「市民後見人候補者座談会」を開催し、市民後見人候補者と意見交換を実施した（参加者31名）。

③関係機関との連携・「権利擁護・成年後見制度」利用支援に関するアンケート調査の実施

④権利擁護施策の推進・神戸市と金融機関との権利擁護に関する連携協定

⑤法人後見事業（法定後見・任意後見）

ア. 法定後見

判断能力が十分でなく他に適切な法定後見人が得られない人を対象に、財産管理や身上保護等を行うため、後見活動に取り組んだ。

成年後見支援センターで養成する市民後見人が成年後見人等に選ばれる際には、市民後見人の後見活動の助言や指導を行うために、家庭裁判所から後見監督人の受任要請を受け、後見監督人に就任し市民後見人の活動を支援した。

イ. 任意後見

概ね60歳以上の高齢者、知的・精神障がい者で契約にあたり意思能力の確認ができる人を対象に、将来自分で判断できなくなったときに備え、本人と本会との間で任意後見契約を締結し、①定期訪問の実施、②判断能力が十分でなくなった場合は任意後見監督人選任の申立て、③任意後見人として財産管理や生活に必要な事務全般の代行を行った。なお、事業開始当初と比べ任意後見に取り組む専門職等が多くなっており、本会では新規の契約は締結していない。

	法定				任意		合計
	後見	保佐	補助	後見監督	後見	契約	
令和3年度	4	3	0	23	0	1	31
令和2年度	4	3	0	31	0	1	39

⑥広報・啓発

成年後見制度についてより多くの市民に啓発・周知するため、成年後見セミナーを開催した。今年度は成年後見制度を含む権利擁護における意思決定支援に焦点をあて、成年後見制度の利用を検討している市民、親族後見人、関係機関等より参加申込みがあったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催形式を変更し、期間限定のオンライン視聴およびオンライン環境のない方を対象としたセミナー上映会を開催した（オンライン視聴申込み 390 名/視聴回数 780 回/セミナー上映会参加 15 名）。

また、成年後見制度の利用が必要な人が適切に相談に繋がるようホームページへの情報掲載、パンフレットの配布等、制度の普及啓発を図るとともに行政や高齢・障害分野の関係機関、福祉関係団体等から講義依頼を受け講師を派遣した（パンフレット配布 5,470 枚/講師派遣 7 ヶ所）。

介護保険サービス等の提供

(1) デイサービス事業【介護保険事業】

長田において、通所介護を実施した。初期・若年性認知症特化型通所介護（毎週木曜日）については新型コロナウイルス感染拡大防止のため R3. 4/1～R4. 3 月末は休止した。新型コロナウイルス感染者（利用者 1 名、職員 1 名）が発生したため 5/24～6/5 まで自主休業した。西では、認知症の方を対象にした「認知症対応型通所介護事業」を実施した。

また、いずれのセンターにおいても居宅介護支援、介護予防支援事業を実施した。

①通所介護事業（デイサービス）の利用状況

	実利用者数(人)	延べ利用者数(人)	実施日数(日)	1 日当り利用者(人)	定員(人)
一般（長田）	109	9, 226	296	31. 2	40
初期・若年性認知症特化型（長田）	0	0	0	0	10
認知症対応型（西）	28	1, 846	253	7. 3	12

②通所介護事業におけるボランティア登録・活動者数（人）

	長田	西	合計	前年度
登録者数（実活動者数）	16	4	20	30
延べ活動者数	485	75	560	963

(2) 居宅介護支援（えがおの窓口）事業【介護保険事業】

要介護者の自立支援を図るため「居宅介護支援事業（えがおの窓口）」を実施し、介護サービス計画（ケアプラン）の作成等を実施した。（件）

	北	長田	須磨	西	合計	前年度
ケアプラン作成	2, 356	2, 197	1, 558	1, 834	7, 945	8, 190
要介護・要支援認定調査	598	577	409	420	2, 004	1, 690

(3) 認知症カフェ（オレンジカフェ）の実施【介護保険事業外】

こうべオレンジカフェに登録し、認知症カフェを長田は毎月、西は隔月で実施の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和 3 年度は中止とした。

長田：今後は人数を少なくし、真野、真陽での 2 ヶ所の運営を検討している。

【さるび屋】（長田在宅福祉センター） 【なでしこ茶屋】（西在宅福祉センター）

(4) 地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）事業

公募により、高齢者の身近な総合相談窓口として事業を神戸市から受託し、地域の特性に応じた地域福祉活動を実施した。

（センター名称）

鈴蘭台あんしんすこやかセンター、真野真陽あんしんすこやかセンター

たかとりあんしんすこやかセンター、平野西神あんしんすこやかセンター

（実施事業）

介護予防マネジメント、包括的・継続的なケア体制の確立

総合相談支援・権利擁護支援

①相談受付実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護相談	606	946	790	527
入所・退所相談	21	7	115	58
認知症に関する相談	75	188	182	169
実態把握	351	163	166	151
介護保険外サービス	34	13	35	48
基本チェックリスト	13	20	15	21
権利擁護	46	62	66	85
認定申請	544	454	381	300
困難事例対応	40	89	134	27
その他	88	103	134	12
合計	1,818	2,045	2,018	1,398
前年度	1,870	2,395	1,495	1,204

②ケアマネジメント相談対応実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント	187	710	237	216
包括的・継続的ケアマネジメント	169	134	111	92
合計	356	844	348	308
前年度	595	2,051	334	357

③介護リフレッシュ教室・地域ケア会議等

(開催回数)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護リフレッシュ教室	4	4	4	4
地域ケア会議	2	2	1	1
地域主催の会議	16	8	31	30
ケアマネ研修会	5	7	1	1

④介護予防支援事業【介護保険事業】

要支援者の自立支援及び介護予防を図るため「介護予防支援事業」を実施し、介護予防ケアマネジメントを実施した。

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
給付管理総数	4,782	5,666	3,558	3,337
内作成件数	2,993	4,327	2,532	2,696
内委託件数	1,789	1,339	1,026	641
受託件数	24	0	0	19
合計(給付管理・受託作成件数)	4,807	5,666	3,558	3,466
前年度	4,959	5,477	3,556	3,120

⑤地域における支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるように関係機関と連携し、地域での支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築を目指して、次の取り組みを行った。

ア. 鈴蘭台あんしんすこやかセンター

ア) 神戸親和女子大学内でのふれあい喫茶の開催 (5回・22人)

対象：地域の高齢者

内容：新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生が参加できなかった。地域住民及び近隣のデイサービス職員、ボランティアでレクリエーションのプログラムを考え、参加高齢者に楽しんでもらった。

イ) 地域ケア会議の開催 (1回・延べ参加者数 27人)

R4. 3. 19(土)「地域でできる事をみんなで考えよう！」をテーマに実施した。

参加者：地域住民、民生委員児童委員、薬局、北区あんしんすこやか係、北区社会福祉協議会、北警察

内容：高齢化が進む中認知症を発症した方やいつもと違う様子の方を地域の中でどのように支えて行けばいいか、それぞれの立場でできる事を話し合った。

見守りポイントなど新しいアイデアも出た。

ロ) 個別ケア会議の開催 (1回・延べ参加者数 16人)

R3. 11. 20 (土)「認知症の方をどのようにサポートしていけばいいかみんなで考えよう」

内容：事例をもとに私のできること、あればいい資源について話し合う。

地域の高齢者のいつもと違う様子を早期発見できるよう日頃の声掛けや挨拶を心掛け、地域住民と顔なじみになるという意見や認知症への理解や接し方への不安であるという話があった。

エ) 認知症等高齢者声掛け訓練

新型コロナウイルス拡大防止のため未実施。

カ) 認知症サポーター養成講座

R3. 12. 4 (土) 1回開催参加者数 16名

キ) 地域の介護施設内でのふれあい喫茶の開催

なごみ(鈴蘭台自治会館)は、ボランティアは代表が高齢となり3年近く活動休止状態で、再開のめどはたっていない。

カトレアカフェ(介護老人福祉施設カトレア鈴蘭台)は、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設内への立ち入りができず喫茶は開催されなかったが、喫茶ボランティアの士気が下がらないよう相談を受けるなど今後に向けて話し合った。

レガートクラブ(既存の喫茶店の一部を借りて実施)は、緊急事態宣言解除後は開催されたため、ボランティアの後方支援を行った。

ク) 出張相談窓口の開設

住民が相談しやすい身近な場所で相談窓口を開設予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域福祉センター等が休館となり、ふれあい給食会やふれあい喫茶が活動休止となり、出張相談が開催できなかった。

ク) フレイル予防

内容：小部東地域福祉センターで毎月第4月曜日に行う「OKクラブ（小部東こけないクラブ）」にてフレイル予防体操を行った。（5回・40人）鈴蘭台地域福祉センターの介護予防体操でフレイル予防体操を行った。（1回・14人）

広報（フレイル予防のチラシ）：ベルスト鈴蘭台（駅ビル）1階、3階に設置されているチラシ置きラックに入れ、広く広報を行った。（総数338部）ベルスト鈴蘭台3階の掲示板に掲示させていただいた。レガート喫茶（3回・41人）、神戸親和女子喫茶（1回・13人）、年金日に消費者被害啓発活動に合わせて計200人に配布し、啓発を行った。病院に10部配架させていただいた。地域ケア会議や事業者連絡会、民生委員連絡会、小部東小学校の防災訓練や個人など様々な機会での広報を行うことができた。

ケ) ベルスト鈴蘭台（駅ビルコンコース）で毎月第3金曜日に出張相談会を開催した。

コロナ禍の影響で毎月は実施できなかった。

開催回数 4回 相談人数 延べ6人

コ) 年金支給日に金融機関前（3か所）であんしんすこやかセンター、消費者被害、フレイル予防のチラシを配布した。（2回200セット配布）

イ. 真野真陽あんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催（1回・参加者数20人）

テーマ：志里池地区の集いの場について

参加者：三師会等医療関係、ふれあいのまちづくり協議会、民生委員児童委員、長田区社会福祉協議会、えがおの窓口、長田区あんしんすこやか係等

内容：「志里池地区の集いの場について」現状報告及び次の状況について意見交換を行った。（1）高齢者の生活の様子（2）どのような集いの場があればよいか（3）集いの場における新型コロナウイルス感染予防について（4）集いの場を運営する担い手について（5）その他

以上より、新たな集いの場の開催に向けて地域の方や各関係機関の意見を聞くことができた。地域ケア会議開催後は、新たな集いの場開催に向けて民生委員と2回協議を行った。

・個別ケース検討会議 1回

参加者：本人、民生委員児童委員、保佐人、ケアマネジャー

認知症高齢者の自宅での生活支援について具体的な方法を協議し、具体的な取り組みと役割分担を決定することができた。

イ) 認知症等高齢者声掛け訓練の実施

平成30年、令和元年に2年続けて実施したが令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。今年度は実施し44名の参加があった。

ウ) 認知症サポーター養成講座1回開催。参加者33人。

真陽小学校6年生の児童向けに認知症サポーター養成講座を開催。

エ) 高齢者向け情報誌「まのしんようネット」の発行

発行回数4回。延べ発行部数12,000部

内容：地域ケア会議の参加者で「まのしんようネットメンバー」を結成し、地域高齢者の消費者被害等の情報や介護予防の情報を発信した。

わ) 災害時要援護者避難訓練への協力 内 容：東南海地震に備え、地域団体が実施する避難訓練において、要援護者名簿の整理支援活動を行った。(避難訓練は中止となっている。)
か) 出張相談窓口の開設 内 容：住民が相談しやすい身近な場所で窓口を開設した。 <志里池相談室> 場 所：志里池地域福祉センター（14 回・相談件数 30 件）<地域の行事> 真陽フェスティバル内での開催は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
き) 予防介護教室「転ばん塾」の後方支援 主 催：民生委員児童委員 参加者：地域住民 場 所：志里池地域福祉センター、梅ヶ香公会堂 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
く) 地域の居場所づくり「わいわいカフェ」の後方支援を予定 主 催：老人会 参加者：地域住民 場所の提供：老人保健福祉施設「介護医療院よしだ」 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
け) 地域行事での高齢者疑似体験の実施 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
こ) 福祉授業（総合学習）の実施（延べ 4 日間） 内 容：高齢者疑似体験やデイサービスについての理解を深め、利用者との交流会を実施した。今年度の交流会は新型コロナウイルス感染拡大防止のために合同製作形式で開催した。児童に対して地域の支え合い活動について啓発につながった。 対 象：真陽小学校 4 年生(56 人参加) (ウ)の通り真陽小学校 6 年生に認知症サポーター養成講座を行った。

ウ. たかとりあんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催〈1 回・参加者数 18 人〉 テーマ：新型コロナウイルスにより閉じこもり、認知症が進行した高齢者及び家族に対して、早い段階で支援できる仕組みづくりを考える 参加者：民生委員児童委員、三師会等医療関係者、障害者相談支援センター、須磨区医療介護サポートセンター、居宅介護支援事業所、警察、消防、須磨区あんしんすこやか係、須磨区社会福祉協議会 内容：コロナ禍での典型事例を用い、ステップ①「事例の問題点はなにか」ステップ②「本人、家族へのアプローチ方法について」をテーマにグループワークを行い、支援できる仕組みづくりについて話し合った。
イ) ふれあい喫茶、給食会等の運営支援 ・新型コロナウイルス感染症拡大が継続する中、開催の有無についての相談等を受けながら、ふれあい喫茶や給食会等の後方支援を行い、地域コミュニティの活性化を図った。 〈ふれあい喫茶〉(9 回 ・延べ人数 120 人)

〈給食会〉 (9回 ・延べ人数 162 人) 〈つどい場〉 (14回 ・延べ人数 182 人) ・つどい場等に参加している高齢者に、感染予防、消費者被害等について広報啓発を行った。 また、フレイル予防体操を行い介護予防の啓発を行った。
り) 認知症理解のための広報活動 ・認知症キッズサポーター養成講座 1 回開催 (新型コロナウイルス感染症拡大により Zoom で開催した) 対象者：中学 3 年生 147 名、教員 11 名 ・認知症高齢者声かけ訓練の実施 地域のつどい場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により実施できず、来年度に延期となった。
え) こども若者ケアラーの広報啓発 ・小学 6 年生の社会科学習の一環とし、授業を行いこども若者ケアラーについて広報啓発を行った。
わ) 高齢者向け広報紙「赤灯台」の発行（発行回数 4 回・延べ発行部数 4,160 部）区内あんしんすこやかセンターの広報担当で、地域高齢者の消費者被害等の情報やフレイル予防の情報を発信した。

エ. 平野西神あんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催（1 回・参加者数 11 人） 「多問題家族が住み慣れた地域で暮らしていくために必要な支援や地域課題について話し合う」 参加者：民生委員児童委員協議会会長、西区あんしんすこやか係保健師、病院精神保健福祉士、デイケア看護師、調剤薬局薬剤師、障害者相談支援センター相談員、居宅介護支援事業所ケアマネジャー 内 容：日頃の相談内容から抽出した課題をふまえて作成した模擬事例を中心に、地域のキーパーソンや医療、保健、高齢、障害の専門職がそれぞれの立場で考え、意見交換を行った。「できていることに着目する」というケアマネジャーの視点からスタートし、地域の緩やかな見守り・支え合いや、医療機関の将来を見据えた支援等、他機関と連携を図りながら必要な支援に繋ぐという方向性を共有できた。後半は民生委員児童委員協議会会長を中心に座談会形式で地域活動やコロナ禍での課題について話し合った。コロナ感染予防対策として、区内で初めてハイブリット形式での地域ケア会議を開催することができた。
イ) 認知症サポーター養成講座を開催（1 回・参加者 21 名） 内 容：ふれあいのまちづくり協議会の協力を得て、講座開催の広報を行い、地域住民対象に開催した。
リ) 認知症カフェ開催（偶数月：第 4 日曜）の後方支援は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し休止中。
エ) センター広報誌「平野西神だより」を配布。（発行回数 1 回・発行部数 200 部） センター広報、フレイルチェック、地域の活動紹介（いきいき百歳体操）等を掲載し、自治会、ふれあいのまちづくり協議会の協力を得て、圏域に回覧・掲示をした。

わ) 地域活動の後方支援を実施

内 容：圏域内では既に 5 か所の地区でいきいき百歳体操の集いが開催されている。

コロナ禍で閉じこもりがちな生活が続く中、地域のキーパーソンと連携を図り、新たに 2 ヶ所の地区で立ち上げの後方支援を行った。

⑥ 地域支え合い推進事業

地域のひとりぐらし高齢者等の見守り体制づくり (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
見守り相談実績	28	21	166	76
地域支え合い活動	22	28	0	49
小地域支え合い連絡会開催回数	13	18	25	6

⑦ 高齢者自立支援拠点（高齢者世帯生活援助員派遣）事業

公営住宅の空き住戸を活用した高齢者自立支援拠点として運営した。

真野真陽	「おちゃのま」（旧あんしんすこやかルーム）
相談実績 24 件	毎週火・木曜日 延べ 90 日開設
	長田区浜添通 3 丁目 2-11

⑧ シルバーハウジング生活援助員派遣事業

生活相談・安否の確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等の高齢者向公営住宅入居者の生活支援事業を実施した。

真野真陽	西尻池高層住宅 (戸数 169 戸)
生活相談 9 件	シルバーハイツ東尻池 (戸数 24 戸)
安否確認 2,010 件	真野ふれあい住宅 (戸数 14 戸)
緊急対応 207 件	

認知症支援事業

(1) こうべオレンジカフェ登録事業

市内の認知症カフェの設置を推進し、市民への広報を行った。(登録数 34 件)

(2) 神戸市高齢者安心登録事業

認知症などで行方不明の心配がある高齢者の情報を事前に登録し、関係機関および兵庫県警とであらかじめ共有した。登録者が行方不明となった場合は早期発見・早期保護のため、地域の協力者に対し電子メールで捜索協力を呼びかけた(24 時間 365 日対応)。

	登録者数	捜索協力者数	メール配信依頼数
令和 3 年度	2,217 人	635 人	20 件
令和 2 年度	1,185 人	504 人	32 件

(3) 若年性認知症の方への支援

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月 1 回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を立ち上げた。

開催日：毎月 1 回実施。7 月 30 日、8 月 9 月コロナ感染拡大の影響で中止、10 月 28 日、11 月 27 日、12 月 11 日、1 月 21 日、2 月 19 日、3 月 26 日

会場：街中のカフェ・こうべ市民福祉交流センターで実施

内容：ご本人、家族の自己実現、情報交換の場。レクリエーション、病気や制度についての勉強会、参加者の希望を聞きながら、プログラムを考える。

参加者：延べ 37 名

(4) 神戸市介護保険施設入所相談センターの運営

①事業内容

ア．ケアマネジャーからの依頼に基づき施設入所の緊急性が高い人の受け入れができる特別養護老人ホームを紹介

イ．緊急性判定委員会において施設紹介の対象となるが、入所施設の空きがない場合、施設入所までの間利用できる特別養護老人ホームの緊急ショートステイの紹介

ウ．施設入所等に関するケアマネジャーからの相談への適切な助言

②相談件数 21 件

障害者地域生活支援拠点の運営

(1) 障害者相談支援センター

障がい者及び障がい児が住み慣れた地域で、障害福祉サービス等を利用して、その有する能力及び適性に応じて自立した日常生活又は社会生活が営むことができるよう支援するとともに、地域の障がい者等の福祉に関する各般の問題について、障がい者等、及びその介護を行う者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行った。

また、地域支援機能強化事業として、障害者の地域移行の推進及び地域生活の継続支援を目的として、全市レベルでは、チャレンジ研修の実施（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和４年度に延期）、地域移行支援サービスの手引きの改定作業、入所施設・病院に地域移行の現状や課題などについてヒアリング、体験型グループホーム事業の利用調整を行った。区域レベルでは、精神科病院、入所施設職員や入院・入所者への啓発、自立支援協議会との共催による研修やネットワークの構築、その他地域の実情に合わせた研修の開催等を行った。

① 基本相談

(件)

相談内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
福祉サービスの利用等に関する支援※	3,922	3,837	4,355	5,049	4,838
障害や症状の理解に関する支援	114	89	53	153	149
健康・医療に関する支援	330	669	347	470	1,173
不安の解消・情緒安定に関する支援	129	649	38	977	910
保育・教育に関する支援	44	49	28	3	46
家族関係・人間関係に関する支援	223	271	104	100	664
家計・経済に関する支援	32	79	46	7	267
生活技術に関する支援	154	401	131	40	584
就労に関する支援	60	39	82	39	71
社会参加・余暇活動に関する支援	17	6	15	1	300
権利擁護に関する支援	44	94	27	56	37
その他	777	1,155	522	2,482	1,633

※福祉サービスの利用等に関する支援の中には、次の調査等を含む (件)

調査等内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
障害支援区分認定調査	46	30	73	33	51
支給決定更新等に係る勘案事項調査	247	201	244	380	223
移動支援サービス利用に係る聴き取り等	26	10	18	6	7

②指定特定相談支援事業者・指定障害児相談支援事業者としての相談契約件数 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
計画相談支援	16	23	14	49	40

③その他

- ・福祉啓発講演会の実施 (須磨区)

障害の有無にかかわらず多様な個性が輝く地域共生社会の実現に向けて、地域住民や福祉従事者に障害理解の推進のために、日本 LGBT 協会代表理事 清水 展人氏を招き講演会を実施した。

実施日:2022 年 2 月 5 日(土)14:00~16:00

場所:須磨パティオ健康館 パティオホール

参加者:100 名

(2)見守り支援事業

障がい者等が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、関係機関と互いに連携して、地域全体で障がい者等を見守る体制の整備を進めた。また、災害時の要援護者の支援体制を構築するための取り組みを始めた。

(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
見守り総件数 (延べ)	409	192	399	240	251
台帳 (実人数)	91	71	83	23	74
台帳外 (実人数)	15	7	10	6	1
暫定的見守り (実人数)	7	4	16	6	30
支援へとつないだ件数	3	3	8	1	4
ネットワーク構築のための会議等	9	9	6	5	9
緊急対応	0	1	0	0	1

(3) 地域生活支援拠点コーディネート事業

(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
緊急受入(短期入所)相談 総数※1	15	20	15	33	20
時間外緊急出動※2	0	0	0	0	0
日中活動の場の提供	7	5	1	6	3
ネットワーク構築のため の会議等	25	23	9	9	5
個別ケース支援	3	4	13	14	5

※1：1回の入所のために複数日・回に渡る調整を行った場合でも1とする。

※2：同一利用者に対し複数日の出動があれば複数とする。

(4) 生活介護・短期入所

北区、須磨区、西区で、生活介護と短期入所事業を行った。また、中央区は、障害者支援センターの相談部門を担い、生活介護及び短期入所を担当する社会福祉法人神戸明輪会と共同で運営した。長田区についても相談部門を担い、生活介護及び短期入所は、既存施設である社会福祉法人みらいが運営する「みらいおもいけ園」と連携した。

①生活介護**ア. 利用状況**

介護を必要とする方に、昼間、入浴、排せつ食事の介護等を行うとともに、創作活動や生産活動（工賃として作業訓練費の支払い有）などの機会を提供することにより、地域での生活を支援した。

また、施設や保護者の元からの自立等にあって、地域生活への移行をしやすいするための体験の場としての役割も果たした。

開設時間：9:00～16:00

定 員：20 人

休業日：土・日曜日 年末年始 (人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数 (令和4年3月31日現在)	30	41	33
延べ利用者	2,479	1,747	2,148

イ. 重点取り組み事項**(ア) 委員会活動による業務改善**

職員により構成される委員会を設置し、各種整備や業務改善に取り組んだ。

- ・支援プログラム検討委員会 生産活動・創作的活動・クラブ活動の企画等
- ・施設 職場環境整備 事業継続委員会 施設環境やセンター間の応援体制の整備等
- ・事故 虐待防止 感染対策委員会 マニュアルの整備 事故・虐待・感染症対策等
- ・サービス、ケア品質向上委員会 接遇改善、介護技術の向上、事例検討会等

(イ) 新型コロナウイルス感染防止対策

非接触スタンド型検温カメラ、テーブル上のアクリル板、自動手指消毒器を各

所に設置、来客者への玄関前対応の徹底、簡易 PCR・抗原検査キットを常備した。

(ウ) 共生型サービスの創出

65 歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた 40 歳以上の利用者が、通いながれた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施した。（西：実施、須磨：指定申請書提出）

(エ) 北区

個性を活かした表現活動を行い、絵画や組紐などの制作活動を実施。展示会への出展を行うなど社会参加活動を実施し、複数の展示会で入選した。

(オ) 須磨区

- ・個性を活かした表現活動を行い、絵画や陶芸などの制作活動を実施。作品の展示や展示会への出展を行うなど、社会参加に向けた活動を実施。
- ・須磨区社会福祉協議会ボランティアセンターと連携し、地域での障害者支援を目的に啓発講座を実施。また、受講生に実際に来ていただき利用者と交流を計画していたが、往来の制限に伴い休止中。
- ・神戸市要医療的ケア重症児者短期入所利用支援加算の取得
夜勤看護師を配置し支援加算を取得し、短期入所利用者に医療ケアを提供した。
実人数/日 1 人/10 日。
- ・須磨在宅内の掃除を区内外 4 か所の就労移行支援事業所とネットワークを形成し委託。ジョブコーチ無しでの訓練先として実施した。
- ・他施設等を視察し、海外より専門のスヌーズレン一式を導入し、感覚活動支援を試行した。

(カ) 西区

- ・認知症型デイサービス（なでしこケアセンター）利用者と生活介護利用者合同で演奏ボランティアによる演奏会を実施した。利用者・家族と一緒にクリスマスツリーやリースを制作しクリスマス交流会を行った。

②短期入所

障がい者の地域での生活を支えるため、短期入所を行った。

また、介護者の急な入院等で在宅生活が困難な障がい者を、緊急で受け入れた。

定 員：5 人（別に緊急利用床 1 床）

休業日：年中無休

（人）

	北区	須磨区	西区
利用登録者数（契約済）	86	105	194
延べ利用者	1,418	2,022	1,961
緊急利用者数・利用日数	8 人/48 日	19 人/130 日	9 人/45 日

障がい者のスポーツ・文化の振興

(1) 障がい者スポーツの普及啓発

- ①「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」の発行
センター事業の紹介と障がい者のスポーツに関する情報を提供した。
(3回、各1,500部 合計4,500部)
- ②ホームページによる情報提供
画像添付ができる申込みフォームを新たに設置し、利便性を向上させた。
- ③障がい者のスポーツを紹介する啓発パネルなどの展示
障がい者のスポーツを紹介する写真・パネルを花時計ギャラリー・アドウィンドウ・コムスタ神戸・こうべ市民福祉交流センター・BRANCH 神戸学園都市に展示した。
- ④出前教室「聞いて！見て！やってみて！」の実施
市内小学校・児童館にセンター職員を派遣し、軽運動をはじめ、障がい者スポーツの実演・指導を行う。(新型コロナウイルスの影響により中止)
- ⑤障害者スポーツ指導員の派遣による啓発
市内小学校にセンター指導員と車いすバスケットボールチーム、シッティングバレーボールチームを派遣した。また、生徒が障がい者のスポーツを体験し、障がい者と交流する機会を提供した。(2回)

(2) 障害者スポーツリーダーの養成及び派遣

多くの市民に障がい者のスポーツに関わってもらうため、また、地域で障がい者スポーツ活動を推進していくために、神戸市スポーツ推進委員、地域スポーツクラブの指導者、教員を対象とした障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催し、障がい者スポーツリーダーを養成して実際の大会などに派遣した。(登録者486人)

- ①第37回初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催
(スポーツ推進委員、スポーツクラブ指導者、教員を主な対象として実施)
実施日 令和3年7月31日～8月28日のうち5日間
場 所 こうべ市民福祉交流センター
参加者 24人(受講修了者数22人)
- ②神戸市障害者スポーツリーダースキルアップ講座の開催
実施日 令和3年12月5日
場 所 市民福祉スポーツセンター体育館
参加者 28人
- ③第38回初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催
実施日 令和4年1月29日～2月13日のうち5日間
場 所 こうべ市民福祉交流センター
参加者 25人(受講修了者数25人)
- ④スポーツリーダーの派遣(のべ152人)

派遣行事名	期日	人数
第29回全国身体障害者野球大会	5月8～9日	中止
第60回神戸市障害者スポーツ大会 フライングディスク	5月22日	中止

第 60 回神戸市障害者スポーツ大会 陸上競技	5 月 23 日	中止
第 60 回神戸市障害者スポーツ大会 水泳	5 月 30 日	中止
第 12 回センターカップ フライングディスクアスリート選手権大会	7 月 11 日	中止
トレイルオリエンテーリング	10 月 25 日	21 人
パラスポーツ王国 2021 HYOGO&KOBE	11 月 3 日	46 人
2021 神戸女子車いすバスケットボール選手権大会	11 月 27 日～28 日	25 人
第 34 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会	11 月 27 日	20 人
第 16 回神戸市シッティングバレーボール大会	3 月 6 日	14 人
第 17 回市民福祉スポーツセンター 水泳記録会	3 月 13 日	12 人
各種障害者スポーツ教室		14 人

(3) 障害者スポーツ大会の開催及び障害者スポーツ大会への選手派遣・参加助成

障がい者の機能回復と健康の増進を図るため各種障害者スポーツ大会を開催するとともに、競技能力向上に資するため各種障害者スポーツ大会へ選手を派遣した。

①第 29 回全国身体障害者野球大会の開催（日本身体障害者野球連盟、神戸市共催）

実施日 令和 3 年 5 月 8 日(土)～9 日(日)

場 所 ほっともっとフィールド神戸ほか

新型コロナウイルスの影響により中止し、連盟主催で交流戦が開催された。

②2021 神戸女子車いすバスケットボール選手権大会の開催 ※皇后杯の代替大会

実施日 令和 3 年 11 月 27 日(土)～28 日(日)

場 所 グリーンアリーナ神戸（メイン）

参加チーム 3 チーム

③第 25 回全国シニア選抜車いすバスケットボール大会の開催

実施日 令和 3 年 11 月 27 日(土)～28 日（日）

場 所 グリーンアリーナ神戸

参加チーム 新型コロナウイルスの影響により中止

④第 15 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」（兵庫県・神戸市共催）

実施日 令和 3 年 5 月 1 日(日)

場 所 ユニバー記念競技場

参加者 車いす 108 人

⑤第 34 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会の開催

実施日 令和 3 年 11 月 27 日(土)

場 所 ユニバー記念競技場ほか

参加者 154 人

(身体障がい 14 人、知的障がい 122 人、精神障がい 3 人、健常者 15 人)

⑥障害者スポーツ大会への参加助成など

全国障害者スポーツ大会出場を目指す各種障害者スポーツ団体に、近畿地区予選会への参加支援を行った。

大 会 名	期 日	場 所	備 考
知的障害者フットベースボール競技近畿地区予選会	6 月 6 日	奈良県	不参加
車いすバスケットボール競技近畿地区予選会	6 月 6 日	大阪市	中止
精神障害者バレーボール競技近畿地区予選会	6 月 13 日	京都府	中止
知的障害者サッカー競技近畿地区予選会	6 月 6 日	滋賀県	中止
知的障害者ソフトボール競技近畿地区予選会	6 月 6 日	大阪市	中止
知的障害者バスケットボール競技近畿地区予選会	6 月 13 日	和歌山県	中止
知的障害者バレーボール競技近畿地区予選会	6 月 6 日	和歌山県	※
視覚障害者グランドソフトボール競技近畿地区予選会	5 月 30 日	京都府	※
聴覚障害者バレーボール競技近畿地区予選	6 月 6 日	和歌山県	中止※

※神戸市からの出場はなし

(4) 障害者スポーツ大会の開催助成

障がい者のスポーツの普及・奨励のため大会などの開催に助成をする。

大 会 名	期 日	場 所
日本身体障害者サッカー親善大会 第 7 回ヴィッセルカップ	9 月 18 日～19 日 中止	しあわせの村 多目的運動広場
日本身体障がい者水泳連盟指導者研修会	1 月 15 日～16 日	しあわせの村
ひっぱりリーグ神戸' 22 (障害者綱引き大会)	2 月 6 日中止	グリーンアリーナ神戸

(5) 障害者スポーツの団体の育成

障害者スポーツの団体及び同好会の育成のため、登録制度を実施し、障害者スポーツの団体間の情報交換を行う障害者スポーツクラブ連絡会を開催している。今回は、新型コロナウイルス感染予防により、書面での開催とした。

団体数 18 団体

(6) 神戸市の障害者スポーツ振興に関する事業

①第 21 回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」への選手派遣

実施日 令和 3 年 10 月 23 日(土)～10 月 25 日(月)

場 所 三重県

派遣人員 新型コロナウイルスの影響により中止

②第 21 回全国障害者スポーツ大会に向けての選手強化

障害者競技団体及び関係団体 10 団体に選手の育成強化費を助成するのは、本大会の中止に伴い停止した。

③第 60 回神戸市障害者スポーツ大会の開催

競技名	月 日	参加者	場 所
卓球競技	4 月 18 日	新型コロナウイルスの影響により中止	神戸市立中央体育館
ボッチャ競技	5 月 16 日	新型コロナウイルスの影響により中止	王子スポーツセンター 体育館

フライング ディスク競技	5 月 22 日	新型コロナウイルスの影響に より中止	王子スタジアム
陸上競技	5 月 23 日	新型コロナウイルスの影響に より中止	ユニバー記念競技場
水泳競技	5 月 30 日	新型コロナウイルスの影響に より中止	市民福祉 スポーツセンター
合 計		一人	

④第 12 回市民福祉スポーツセンターカップアキュラシー選手権の開催

※指定管理者オーグスポーツと共催

実施日 令和 3 年 7 月 4 日(日)

場 所 市民福祉スポーツセンター体育館

参加者 新型コロナウイルスの影響により中止

⑤第 33 回神戸市知的障害者フットサル大会の開催

実施日 令和 3 年 9 月 18 日(日)

場 所 神戸総合運動公園球技場

参加チーム 新型コロナウイルスの影響により中止

⑥第 16 回神戸市シッティングバレーボール大会

実施日 令和 4 年 3 月 6 日(日)

場 所 しあわせの村体育館

参加チーム 8 チーム

⑦第 16 回神戸市精神障害者バレーボール大会

実施日 令和 4 年 3 月 11 日(金)

場 所 神戸市立王子スポーツセンター体育館

参加チーム 1 チームのみのため中止

⑧第 17 回市民福祉スポーツセンター 水泳記録会

※指定管理者オーグスポーツと共催

実施日 令和 4 年 3 月 13 日(日)

場 所 市民福祉スポーツセンタープール

参加者 15 名

⑨障害者スポーツ教室の開催 (参加者 合計 247 人)

ア. 身体障害児・者スポーツ教室の開催 (小計 80 人)

場 所 市民福祉スポーツセンター (体育館・プール)・しあわせの村

教 室 名	期 日 等			参加者
脳血管障害者体操教室 (16 歳以上)	午 前	I 期	コロナ禍で中止	—
		II 期	水曜日 10 回	6 人
		III 期	水曜日 10 回	7 人
	午 後	I 期	コロナ禍で中止	—
		II 期	水曜日 10 回	9 人
		III 期	水曜日 10 回	8 人

卓球教室（16 歳以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	月曜日 10 回	8 人
ビームライフル教室 （16 歳以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	水曜日 10 回	6 人
身体障害者水泳教室 （16 歳以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	火曜日 10 回	9 人
身体障害児水泳教室 （3 歳～高校生親子）	I 期	コロナ禍で中止	—
	II 期	土曜日 10 回	6 人
	III 期	金曜日 10 回	3 人
ダーツ教室（16 歳以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	土曜日 5 回	8 人
夏期水泳教室（小中学生親子）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	コロナ禍で中止	—
車いすテニス教室（16 歳以上）	8 月～10 月	日曜日 6 回	7 人
ローンボウルズ教室（16 歳以上）	8 月～10 月	コロナ禍で中止	—
ブライントニス教室（16 歳以上）	9 月～11 月	金曜日 10 回	6 人

イ．知的障害児・者スポーツ教室の開催（小計 122 人）

場 所 市民福祉スポーツセンター（体育館・プール）

教 室 名	期 日 等		参加者
体操教室（16 歳以上）	4 月～5 月	コロナ禍による延期	—
	9 月～10 月	金曜日 10 回	10 人
	11 月～12 月	金曜日 10 回	10 人
水泳教室 （5 歳～小学校 3 年生親子）	I 期	コロナ禍で中止	—
	II 期	火曜日 10 回	9 人
	III 期	火曜日 10 回	11 人
水泳教室 （小学校 4 年生～6 年生親子）	I 期	コロナ禍で中止	—
	II 期	水曜日 10 回	5 人
	III 期	土曜日 10 回	8 人
水泳教室 （中学生～20 歳）	I 期	コロナ禍で中止	—
	II 期	土曜日 10 回	15 人
	III 期	土曜日 10 回	12 人
水泳教室 （16 歳以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	土曜日 10 回	20 人
体操教室 （中学生以上）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	水曜日 10 回	7 人
夏期水泳教室 （小学生親子）	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	コロナ禍で中止	—

夏期水泳教室 (中学生～高校生親子)	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	コロナ禍で中止	—
体操教室 (5 歳～小学 6 年生)	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	水曜日 10 回	8 人
体操教室 (3 歳～就学前)	9 月～11 月	金曜日 10 回	7 人

ウ. 障害区分なしの教室の開催 (小計 46 人)

場 所 市民福祉スポーツセンター (体育館)

教 室 名	期 日 等		参加者
バドミントン教室 (16 歳以上)	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	水曜日 10 回	21 人
リズム体操教室 (16 歳以上)	1 月～3 月	金曜日 8 回	9 人
陸上競技教室	前期	コロナ禍で中止	—
	後期	第 3 木曜日 5 回	16 人

エ. アイススケート教室の開催

地域の対象者に氷上で体を動かし、アイススケートに親しむ機会を提供する。

実施日 新型コロナウイルスの影響により中止

場 所 神戸市立ポートアイランドスポーツセンター

⑩地域における障害者スポーツの振興 (地域支援事業)

地域における障がい者の社会参加、自立とスポーツの普及を図るために、大学生の協力を得て、リズム体操・トランポリン・サーキット運動・フライングディスク・バドミントンなどの軽運動に触れて気軽に体操を楽しんでもらえる場として、「とんで!はずんで!たのしいスポーツ」を行った。

期 間 令和 3 年 7 月 3 日～令和 4 年 3 月 5 日

場 所 こべっこランド (3 回) 井吹東小学校

参加者 全 4 回、のべ 29 人

⑪地域との連携

地域のイベントなどに協力し、障がい者スポーツを体験できる場所づくりを行う。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

⑫障害者スポーツ指導の実施

市民福祉スポーツセンター利用者のうち希望する方に対し、毎週火曜日と金曜日に障害者スポーツ指導員が水泳の基礎を指導する。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

⑬トレイルオリエンテーリング大会

しあわせの村において障がい者のスポーツ活動を推進していくために実施した。

実施日 令和 3 年 11 月 21 日 (日)

場 所 しあわせの村

参加者 117 人

(身体障がい 6 人、知的障がい 40 人、精神障がい 12 人、健常 58 人、身体と知的の重複 1 人)

⑭ JUMP FESTIVAL in KOBE

走高跳の大会と合同でパラスポーツの体験会を開催した。

実施日 令和3年11月14日(日)

場 所 新長田若松公園鉄人28号モニュメント前

参加者 約2,000人

(7) 各種障害者スポーツ表彰への推薦

障害者スポーツの振興に著しく寄与した人や、障害者スポーツに優秀な成績を収めた人を対象に推薦を行った。

兵庫県障害者スポーツ功労賞 0人 優秀選手賞 6人

兵庫県教育委員会スポーツ優秀選手賞 9人

神戸市スポーツ功労者 0人

神戸市スポーツ表彰 優秀選手表彰 0人 優秀団体表彰 0団体

こうべユース賞 0人

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会功労章 0人

(8) パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 2021

障害者スポーツの普及と身近な場所で障害者スポーツに取り組める環境作りに向けての啓発を目的として開催した。

実施日 令和3年11月3日(火・祝)

場 所 しあわせの村

参加者 5,400名

(9) 東京パラリンピック出場支援

神戸市文化スポーツ局国際スポーツ室や競技団体と連携し、平成27年に地震による甚大な被害に遭い、復興途上にあるネパールに対し、スポーツ分野の復興支援として事前合宿を受け入れている。平成29年より東京パラリンピックの出場に向けたサポートを継続していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(10) こうべ障害者音楽フェア 2021 ジョイフルコンサート ※実行委員会形式

障がいのある方やその家族に質の高い音楽を鑑賞していただき、また、音楽が大好きな障がいのある方の発表の場として、平成19年度から開催している。

実施日 令和3年12月18日(土)

場 所 神戸新聞松方ホール

販売数 301枚 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、枚数を制限。

(11) 第5回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+ (ハグ・プラス) 展 2021

市内で芸術創作活動に取り組む障がい者から、作品を広く公募し、応募があった作品476点を、環境の整った会場で展示し、アート作品としての市場性を見極め、顕彰した。

展示期間 令和4年1月29日(土)～2月5日(土)

表 彰 式 令和3年2月5日(土)

場 所 原田の森ギャラリー 本館2階大展示室

来 場 者 1,281人

点字図書館の運営

(1) 蔵書及び貸出し状況

蔵書数	点字図書	3,402 タイトル	13,695 巻
	録音図書 テープ図書	5,398 タイトル	28,920 巻
	デージー図書	4,595 タイトル	4,595 巻
	テキストデージー図書	59 タイトル	59 巻
貸出し数 (自館蔵書)	点字図書	249 タイトル	887 巻
	録音図書 テープ図書	82 タイトル	557 巻
	デージー図書	2,881 タイトル	2,881 巻

(2) サピエ図書館データのダウンロード状況(自館蔵書データのダウンロード数)

点字	2,231 タイトル	11,398 人
録音	753 タイトル	20,023 人
テキストデージー	52 タイトル	1,171 人

(3) 今年度蔵書図書製作数

点訳	パソコン	133 タイトル	409 巻
音訳	デージー	62 タイトル	62 巻
テキストデージー		11 タイトル	11 巻

(4) 定期刊行物(雑誌)の貸出し

点字雑誌	12 タイトル	延 36 人、 505 冊
録音雑誌 テープ	1 タイトル	延 2 人、 24 巻
デージー	38 タイトル	延 282 人、 3,235 巻

(5) 他館との相互貸借

①他館への貸し出し

点字	327 タイトル (1,241 冊)	録音テープ	176 タイトル (1,081 巻)
		デージー	2,130 タイトル (2,130 巻)

②他館からの借り受け

点字	203 タイトル (837 冊)	録音テープ	186 タイトル (1,090 巻)
		デージー	8,719 タイトル (8,719 巻)
		一般 CD	128 タイトル (128 巻)

(6) 「サピエ図書館」情報サービス

①利用者に提供した情報(端末からのデータ取り出しを含む)

点字打ち出し 15 タイトル、7,822 ページ

(7) 定期刊行物等(雑誌)の製作

①点字(13 種)

- ・生活福祉資金新型コロナウイルス特例貸付のしおり 2022 年 1 月版
- ・新聞連載「イイミミ」、週刊誌ヘッドライン、パソコン IT ミニ情報、NHK みんなのうた、日経暮らしのミニ情報、ラジオ関西番組表、中医臨床、プロ野球全選手名鑑、新聞連載小説「ワンダーランド急行」、「ミチクサ先生」、「ふりさけ見れば」、「諸葛亮」

②録音(デイジー5種)

- ・生活福祉資金新型コロナウイルス特例貸付のしおり 2022年1月版
- ・今月の新刊本案内、f d、くすのき、正平調

(8) ボランティア養成講座の開催

コース	期 間	内 容	曜 日	講 師	回数	受講者
テキストデ イジー製作	1月～3月	テキスト化の練習 (前期)	金曜	かもめグループ	11回	12人

(9) 中途失明者対象の点字講習会の開催

期 間	曜 日	内 容	講師	回数	受講者
通年	火曜 午後	点字の読み書き訓練 ※緊急事態宣言中 休止	市視協	29回	延 166人

(10) 読み書きサービス、対面朗読サービス(通年)

名 称	曜 日	内 容	件数	備考
読み書きサービス	火曜・金曜午後	パンフレット、手紙等代筆、代読 ※緊急事態宣言中 休止	57件	68回実施
対面朗読サービス	随 時	小説、新聞等1時間以内 ※緊急事態宣言中 休止	20件	20回 (要予約)

(11) プライベートサービス(個人依頼のあった物を点訳・音訳)

点訳 8件 906ページ 音訳(デイジー版) 3件 3巻

(12) 公的情報 (点訳)10件 917ページ

(13) 機器に関する情報提供・貸出等

名 称	実施月	内 容	人数等
機器相談	4月	iPhone、iPad、パソコン等	22人
	5月	PTR3、iPad、パソコン等	7人
	6月	PTR3、iPhone、パソコン等	12人
	7月	PTR3、iPhone、点字ディスプレイ等	23人
	8月	PTR3、iPad、PTN3等	24人
	9月	iPad、パソコン、リンクポケット等	9人
	10月	PTR3、iPhone、スマートスピーカー等	23人
	11月	iPhone、iPad、パソコン等	22人
	12月	iPhone、パソコン、リンクポケット等	12人
	1月	iPhone、PTR3、パソコン等	14人
	2月	iPhone、点字ディスプレイ、リンクポケット等	13人
	3月	iPhone、リンクポケット、スマートスピーカー等	19人
	合 計		200人

PTR3：卓上型デイジー録音再生機、PTN3：卓上型デイジー再生機

リンクポケット：携帯型デイジー録音再生機

名 称	実施日	内 容	人数等
※福祉機器展	12 月 4 日	機器の展示・相談など	中止
メガネ装着型音声 読書体験会	3 月 10 日	取扱業者から機器の説明と体験	9 人
PTN3 貸出	通 年	デイジー図書体験用(短期貸出)	延 12 台

(14) 点字図書館だよりの発行

(年 6 回、各 墨字版 282 部、点字版 191 部、デイジー版 147 部)

(15) 神戸市「広報紙 K O B E」「市会だより」の編集発行

区 分		発行回数(年)	利用者数	発行部数
広報紙 KOBE	点字版	16 回	100 人	延 7,791 部
	デイジー版	16 回	144 人	延 2,304 巻
市会だより	デイジー版	4 回	19 人	延 76 巻

(16) 点字カレンダーの製作 (2022 年版)47 部

(17) ボランティア自主研究会・勉強会・研修会の開催支援(通年)

延べ開催回数 294 回、延べ参加者 2,196 人

点訳(5 種) 12 グループ、英語、理数、理療、校正、

楽譜(222 回 1,745 人)

音訳(6 種) 実用書、医療、時代物、絵本(リモート含む)、ボイス、

音訳研修(60 回 343 人)

テキストデイジー(2 種) 校正、研究会(12 回 108 人)

(18) 館外でのボランティア研修会

実施日	行事等	場所・行先	参加者
6/23、6/30、 7/7、7/21	第 34 回専門音訳講習会 「処理の基礎コース」	毎日新聞社・日本ライト ハウス(ZOOM 開催)	1 人
※	ボランティア合同研修バス旅行	—	中止
※1 月 26 日	近畿視情協ボランティア・職員研修会 点訳分科会	ZOOM 開催	7 人
2 月 18 日	近畿視情協ボランティア・職員研修会 録音分科会	総合福祉センター	12 人
5/19、7/21、 9/15、11/17、1/19、 3/16	近畿点字研究会	ZOOM 開催	18 人

(19) 利用者との交流会の開催

実施日	内 容	共 催	参加者
※6月4日	神戸大学落語研究会 講演	点灯虫グループ	中止したが、落語の録音を一般CDで貸出

(20) 福祉体験・啓発(児童・生徒の受入れ)

実施日	行事等	対 象	参加者
※	職場体験実習	県立視覚特別支援学校(高等部)	中止
8月4日	「目が見えないってどんなこと～学ぼう障がいのこと～」	湊川児童館小学生	53人
8月5日	「目が見えないってどんなこと～学ぼう障がいのこと～」	八雲児童館小学生	21人
11月4日	図書館見学	兵庫県立総合衛生学院	23人
11月15日	図書館見学	神戸市立湊小学校	107人

(21) 点字啓発等(体験コーナー等行事・教室への指導者等派遣)

実施日	行事等	派 遣	参加者
6月25日	神戸シルバーカレッジ 健康・福祉コース授業	職 員	32人
※7月9日	市視協・点字競技会	点灯虫グループ	中止
8月2日	清風公民館 点字体験教室	点灯虫グループ	15人

(22) 読書バリアフリー法にかかる打合せ会の開催

令和元年に制定された「読書バリアフリー法」を踏まえ、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、神戸市、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

実施日	内 容	場 所	参加者
3月15日	読書バリアフリー法を踏まえた情報共有、連携に向けた意見交換	総合福祉センター	9人

表中の※は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の為に中止または日程変更。

障害者福祉基金を活用した助成事業

障害者福祉基金を活用し、障がい者のスポーツ・文化・福祉活動への助成、障がい者・児を対象とした事業所への助成を行った。

また、障がい者の自立と社会参加を目指し、「神戸ふれあい工房」を拠点に、障がい者施設・就労支援事業所の商品の紹介・販売を促進した。

(1) スポーツ・文化・福祉活動への支援

① フェスピック事業助成

障がい者の社会参加及び地域とのふれあい交流を目的とした事業を実施する団体、事業所、施設に助成を行った。

令和3年度	42件 1,718,000円
令和2年度	43件 1,878,000円

② 障害者文化振興事業助成

障がい者の文化活動を通じて、社会参加や地域とのふれあい交流を推進することを目的とした事業を実施する団体に助成を行った。

令和3年度	1,170,636円
令和2年度	410,000円

③ 障害者スポーツ振興事業助成

令和3年度	550,000円
令和2年度	0円

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業縮小のため、助成を行わなかった。

(2) 機能訓練及び授産事業振興等のための助成事業（清水事業助成）

知的障がい者（児）の福祉向上を目的とした事業を実施する団体・施設に助成を行った。

令和3年度	47件 2,407,000円
令和2年度	37件 1,885,000円

(3) その他の助成

神戸ふれあい工房の自主製品販売運営費として障害者福祉基金から助成した。

令和3年度	499,096円
令和2年度	377,849円

(4) SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、障がい児・者を対象とした事業に必要な備品や音楽療法に使用する備品の購入、通所施設の環境整備に対して助成を行った。

令和3年度	5件 991,105円
令和2年度	4件 480,000円

神戸ふれあい工房の運営

神戸ふれあい工房に加入している神戸市内の 56 施設・事業所の製品を販売した。店舗については、再開の予定はない。

(1) 外商販売 6,845,856 円

- ①「夏の特選ギフト」「クリスマスギフト」「バレンタインギフト」チラシ販売を実施し、神戸市等に対し周知依頼した。
- ②企業等から景品や記念品等の注文を受けて販売した。
- ③ハッピーパックにふれあい工房の商品広告チラシを封入することで、販売の機会を促進した。

(2) 出張販売 12,060 円

例年出張販売しているイベントが、新型コロナウイルス感染症の影響により、軒並み開催中止となったため、出張販売は1件のみ。

(3) 販路拡大

貿易センタービル地下1階にあるミニショップの一角で、ふれあい工房登録事業所の商品販売を仲介した。

(4) 広報啓発

①ホームページの運用

店舗概要に加え、定番商品の紹介を行った。

②Facebook の運用

おすすめ商品・イベント等の最新情報を掲載した。(投稿回数 12 回)

③販売促進ツール

寄付金を活用してオリジナルデザインの紙袋を新たに作成した。また、キャラクターやロゴを使ったシールや包装紙を作成・活用することで、広報力を高めた。

④マスコットキャラクター「ふわぽん」を使った啓発活動

事業所紹介「ふわぽん通信」を作成。ギフトチラシの裏面に掲載し、SNSで発信した。(2 回)

子ども・子育て支援

(1) 総合児童センター（こべっこランド）の運営

市内唯一の大型児童センターとして、児童館・児童福祉に関する専門性を有した職員を配置し、「健全育成事業」「療育指導事業」「啓発事業」を3本の柱として運営を行った。

年度の当初からコロナ禍にあった令和3年度は、臨時閉館や利用人数の制限、講座・イベントの一部中止などを余儀なくされたが、ストレスや悩みを普段以上に抱えていると思われる児童と保護者への支援を途切れさせることのないよう配慮しながら運営した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時閉館や、多くの講座・イベント中止を余儀なくされたが、児童や保護者への支援を止めることのないよう、会場を広く設定するなど工夫しながら、可能な限り事業を実施した。

	開館日数	年間入館者数	1日あたり 入館者数	入館者数累計
R3年度	280日(28日閉館)	167,885人	600人	11,197,350人
R2年度	254日(52日閉館)	148,177人	583人	11,029,465人
R元年度	279日(28日閉館)	338,899人	1,215人	10,881,288人

①健全育成事業

0歳から18歳未満のすべての児童を対象とした児童福祉施設として、幅広い年代に向けた健全育成事業を実施した。特に、令和3年度は他者を受容し、一人一人の人格を尊重し、多文化共生できるイベントを行った。また、多人数での交流や接触が難しいコロナ禍にあっても、家族で楽しめるイベントや、子どもたち自身がやる気を失わず、チャレンジする意欲を高めることのできる事業を積極的に実施した。

ア.「みんなちがってみんないい」こべっこランド 【新規】

障がいの有無、性別や年齢、国籍に関わりなく、誰でも他者を受け入れ、共に楽しめるこべっこランドを目指して多文化共生をテーマとしたプログラムを実施した。

- ・なるほど THE ワールド～知ろう！見よう！体験しよう！～
- ・SDGsをテーマとした図書コーナー・情報コーナーの設置

イ.「家族で楽しむ」こべっこランド 【拡充】

コロナ禍が続く中、親子で協力して作品を作り上げたり、家族のコミュニケーションを深め、共に楽しめるプログラムを重点的に実施した。

- ・おやこのひろば（わくわくひろば、よちよちひろば、赤ちゃんひろば）
- ・巨大迷路に挑戦
- ・親子クッキング
- ・プレイランド（家族単位で遊べる遊びの提案、場の提供）
- ・ハッピーコンサート など

ウ.「多様な利用形態で楽しむこべっこランド」 【拡充】

YouTubeで動画配信をし、イベントに参加できない子どもたちが楽しめる仕掛けを実施した。

- ・閉館したゴールデンウィーク時に家で楽しめる遊びをカーモチャンネルで配信
- ・こべっこランド前を通行する市民に向け、保育士デュオ「かば★うま」の路上ライブを行った。また、その様子をライブ配信した。

エ. 中高生の居場所づくり「こべっこ中高生ランド」【新規】

夏休み以外は、ボランティアとしての利用が主となっている中高生が気軽に立ち寄り、自由に過ごせる場として「こべっこ中高生ランド」を開設した。

ホールや研修室にドラムやゲーム、コミック等を設置し、友達同士で、また一人で来ても対戦型ゲームを楽しむなど、学校を離れた居場所としての定着を目指した。

【健全育成事業一覧】

※新規 ◆中学生プログラム ☆高校生ワークショップ ◎ボランティア自主イベント

【大型】

わくわくゴールデンウィーク	中止	こべっこトレイン	313 人
巨大迷路に挑戦(4 日)	1,152 人	わくわくひろば(29 回、6 回中止)	279 組
こべっこハロウィン(2 日)	852 人	よちよちひろば(29 回、6 回中止)	492 組
カーモのバースデーパーティー(2 日)	1,015 人	あかちゃんひろば(29 回、6 回中止)	254 組
※プレイランド(3 日)	335 人	ファミリーフェスタ	258 組

【スポーツ】

チャレンジスポーツ(ミズノ)(4 回)	58 人	わんぱく体操教室	90 人
※ダブルダッチに挑戦		(3 回、1 学期中止)	
(できるようになる教室)(1 回)	20 人	親子体操教室	97 組
※◆ドローン操縦体験(2 回)	15 人	(3 回、1 学期中止)	
		とんではずんで楽しいスポーツ	29 人
		(2 回)	
		発達がゆっくりな子の体操教室	38 人
		(3 回)	

【料理】

料理が好きになる教室(おにぎり)(6 回)	76 人	おかし工房(こいのぼりクッキー)	中止
料理が好きになる教室(ロリポップパン)	中止	おかし工房	135 人
伝承・季節料理(おはぎ)(6 回)	121 人	(おばけカップケーキ)(6 回)	
伝承・季節料理(おせち)(4 回)	29 組	おかし工房(グラノーラリース)(6 回)	127 人
親子クッキング	24 組	親子でそば打ち体験(2 回)	27 人
(くまちゃんのそばろご飯)(4 回)		祖父母とクッキング(4 回)	25 組
親子クッキング	中止	カスタードプリンをつくろう	24 人
(バケットピザ)(警報)		プロに学ぶ料理教室	5 組
体においしいクッキング	78 人		
1 学期(4 回)			

体においしいクッキング 2 学期(4 回)	64 人	ヘルシーおやつクッキング (神戸女子短期大学)(2 回)	36 人
◆パティシエ体験～フルーツ ロールケーキ作り～(1 回)	13 人		

【造形】

芸工大造形ワークショップ(6 回)	332 人	※ウッドクラフト(4 回)	55 人
親子で一緒にロボクラフト(2 回)	22 組	◆歴史が好きになる教室 (銅鐸制作)	12 人
◆木の工房～木製ペンシルケース ～(1 回)	12 人	造形特別プログラム(20 回)	1,474 人
※◆アニメーター体験(警報)	中止		

【音楽】

小学生ドラム教室(2 回)	11 人	☆ハッピーコンサート (北須磨高校)	85 人
スタジオアニメコンサート(2 回)	36 人		
クリスマスコンサート(2 回)	202 人	親子で楽しむ ファミリーコンサート	46 人
スマイルコンサート(2 回)	10 人		
親子ドラム教室(2 回)	10 組 403 人	はじめての楽器遊び (10 回、1 学期中止)	17 組
ドラムにチャレンジ (40 回、8 回中止)	10 人	ギターにチャレンジ (1 回、2 回中止)	22 人
◆ドラムワークショップ(3 回)		※100 万人クラシックライブ (2 回)	115 人
		ミュージックトライダー(17 回)	298 人

【文化】

人形劇公演(京芸)	56 人	こべっこ寄席	57 人
人形劇公演(クラルテ)	70 人	☆和太鼓(須磨翔風高等学校)	82 人
◆声優体験～学べ! 声優力～	8 人	ものづくり体験(2 回)	96 人
◆めざせ映像クリエイター	11 人	ものづくり体験(左官)(2 回)	28 人

【環境・科学】

こべっこ昆虫展(20 回)	1,419 人	☆プログラミング教室 (神戸山手女子中学校高等学校) (1 回)	16 人
☆神戸高校によるサイエンス教室 (2 回)	25 人		
サイエンスショー(2 回)	140 人	※IT プログラミング(2 回)	16 人
◆iPad でつくろう	9 人	◆薬の調合にチャレンジ(警報)	中止
◆物の性質を調べよう ～酸とアルカリ～(2 回)	27 人	◆自分の暮らしたい部屋をデザイ ンしよう	12 人

②療育指導事業

発達がゆっくりな子どもへの支援や子育て中の保護者、保育や療育の現場で活躍する専門職、ボランティアに対して各種教室・講座・研修を行った。

ア．療育 5 事業（発達クリニック）

神戸市こども家庭センター、大学の研究グループと協働で多様な児童の問題、特性や発達の状況等、乳幼児から小学生までの児童を対象に、個別指導や集団指導を行った。一方、子どもの問題等子育てに悩む保護者を対象に、グループ指導を中心とした子育て講座など、児童と保護者を支援する教室を開催した。

- ・ 1,500g 未満で生まれた赤ちゃんとその家族のための子育て支援教室（YOYO クラブ）
- ・ 学齢期・思春期子育て講座（学齢期・思春期親グループ指導）

概ね 4 歳から中学生までの子どもの発育上の課題（情緒不安定、生活意欲の低下、学校不適応、ウソ、徘徊、いじめ等の問題行動）や親子関係のつまずき（子どもの気持ちがいわからない、対応に困る）といった諸問題への早期の支援を目的としている。

- ・ 親と子のふれあい講座

すべての家庭における子育てを支援する「子育て、親育ち応援」のためのプログラム開発とその普及を目的としている。親子で参加する 0 歳児・1 歳半児対象の講座と、小学校低学年とその親を対象とする「おねしょ講座」、発達がゆっくりな幼稚園児・保育園児とその親を対象とする「家族支援講座」の 4 つの講座を開発し展開している。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、まん延防止等重点措置が発令され、受講者が辞退されたため、おねしょ講座は中止となった。

- ・ 障がい乳幼児親子教室

ダウン症児の発達を促進するための援助を行うとともに、その親への指導・助言を通じて望ましい親子関係の成立、及び通園施設・幼稚園・保育所等、本格的な集団参加への準備を目的としている。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、教室のスタートが例年より遅くなったが、年度末に追加で実施し、例年どおり週 1 回年間 36 回実施できた。

- ・ 感覚運動指導教室

3～10 歳の自閉スペクトラム症や知的障がい、注意欠如・多動症（ADHD）等の子どもに、臨床観察を実施し、感覚統合理論に基づいた指導を行った。

重度心身障がい児とその家族を対象に感覚運動遊具を使ったあそびの活動や保護者同士の交流を図る「チャレンジルーム」を 3 回開催した。

事業名・講師	対象	人数
極低出生体重児とその家族 のための子育て教室 ーYOYO クラバー 畠山 美穂 甲南女子大学教授	出生体重 1,500g 未満の修正月齢 3 ヶ月 ～概ね 2 歳半の 乳幼児とその家族	総数 31 組（双子 3 組）、 延べ 121 人
学齢期・思春期子育て講座 倉石 哲也 武庫川女子大学教授	概ね 4 歳～15 歳の 子どもの対応に 悩んでいる保護者	・学齢期講座 52 期 中止 53 期 8 人 6 回 ・思春期講座 22 期 7 人 4 回 23 期 7 人 4 回 ・就学前講座 19 期 6 人 4 回 ・学齢期フォローアップ講座 12 人 3 回
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 2 館 8 回
親と子のふれあい講座 大島 剛 神戸親和女子大学教授	乳幼児と保護者	総組数 22 組、延べ 198 人
	診断を受けているか療 育手帳を持っている幼 稚園・保育所年中・年 長児と保護者	・家族支援講座 5 組 7 回
	夜尿児と保護者	・おねしょ講座 中止
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 8 館 73 回
障がい乳幼児親子教室 安藤 忠 大阪府立大学名誉教授	0 歳～4 歳の ダウン症児と その保護者	・グループ指導 18 組 36 回、 延べ 234 人 ・個別指導 24 組、延べ 68 回 ・言語指導 12 組、延べ 28 回
感覚運動指導教室 中林 稔堯 神戸大学名誉教授	3 歳～10 歳の知的障が い児、発達障がい児、 ダウン症児等	・感覚運動指導（前期） 6 人 9 回 ・感覚運動指導（後期） 6 人 12 回 ・教育相談 24 人 24 回
	保育士・児童館職員等	・拠点児童館出張講座 3 館 6 回

②居場所づくり事業

ア．きらきらルームの実施

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、5 月は中止、それ以外の月は土曜日（概ね月 1 回）と、夏休みの平日（概ね 2 週に 1 回）、感染防止対策を取りながら定員枠を設けて予約制で年間 14 回実施した。「自由あそび」と、講師を交えて保護者同士が交流や情報交換ができる「みんなでトークタイム」からなっている。

	対象児	大人	兄弟姉妹	計
令和 3 年度	121 人	141 人	37 人	299 人

イ. スマイルクラブの実施

発達がゆっくりな小学4年生～中学生までの子どもと家族を対象に、パソコン・運動・自由あそびなどを取り入れた年齢に応じたプログラムを実施した。

- ・プログラミング教室（2回6組12人）
- ・スマイルルーム（2回）4組 9人
- ・トランポ・ロビックス（1回）4組 9人
- ・親子クッキング教室（1回）
- ・はじめてのドラムにチャレンジ（1回）6組 16人
- ・とんで！はずんで！たのしいスポーツ！（1回）3人

ウ. 障がい児保育ゼミ（全5回）

保育所（園）、幼稚園、認定こども園、児童館等で障がい児童を担当している保育者が事例発表やディスカッションを通じて、①発達評価についての理解・方法 ②園・施設での適応状況についてのとらえ方・考え方 ③保護者の障がい受容レベルの理解と対応 ④障がいについての基本的な考え方 ⑤保護者の養育態度と担当者との関係のあり方などを学ぶ実践的な研修を開催した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため回数を7回から5回に、参加者も定員を減らして21人（21園）で実施した。

エ. 臨床心理士による休日子育て相談

他の相談機関が休みの日曜日に、利用しやすい総合児童センターで臨床心理士が相談に対応し、保護者の育児疲れや子育て不安の軽減、虐待予防に努めた。（47回）

オ. 「発達障がい支援者サポート事業（市民講座・専門講座）」

療育指導事業（発達クリニック）の講師陣を中心に、市民ボランティア対象の「発達障がいボランティアサポート事業」（7講座10回）を開催し子どもと家族の支援に繋げた。また、学校園・児童館・放課後等デイサービス職員等の専門職を対象に「発達障がい支援者サポート事業」（6講座14回）を開催し、保育や療育の現場で子どもたちに関わる職員の資質向上を図り、早期発見・早期支援を行えるように支援した。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策として定員を半分にして開催した。また一部講座をYouTube配信で実施した。

- ・市民講座 参加者 536名
- ・専門講座 参加者 513名

③啓発連携事業

幅広い年代のボランティアの育成、ボランティアと子どもたちの交流を目的としてボランティア活動の推進を行った。

また、神戸市内の小学生が福祉マインドを持ち、成長できるよう、多文化共生や障がいについての理解を深める啓発連携事業を実施した。

【ボランティア登録数】

ボランティア名	登録数	延べ活動人数
社会人ボランティア (KSS)	7 人	43 人
大学生ボランティア	58 人	364 人
大型イベント高校生ボランティア	11 人	23 人
療育サポーター	17 人	170 人
中高生ボランティア	25 人	139 人
合 計	118 人	739 人

【啓発連携事業】

こべっこマルシェ	27 人	◎こべっこクリスマス(5 回)	446 人
ぬいぐるみの大冒険 (友生支援学校)	12 人	◎こべっこパーク(4 回)	347 人
指導者向け講習会	36 人	◎こべボラ劇場(8 回)	265 人
※こべっこ中高生ランド(3 日)	46 人	※こべっこ BOSAI パッククッキング	17 人
なるほど! THE ワールド	10 人	※こべっこ BOSAI 教室～家族で	65 人
◎おばけやしき(5 回)	438 人	楽しくまなぼうさい～(2 回)	

④地域の子育て支援

ア. 市内の児童館支援

・発達障がい児等対応の巡回支援事業

市内児童館等の放課後児童クラブに在籍している発達障がい児等の配慮の必要な子どもに、より良い支援ができるよう心理士が巡回し、放課後児童クラブの現場で対象児の観察と発達の特性に合った関わり方等を助言する職員研修を行った。

講師は総合児童センター臨床心理士が担当した。令和3年度は30の児童館・学童保育コーナー、民間学童保育所をのべ39回巡回し、2月に3～4館合同のグループワークで年度末カンファレンスを6回行った。実際に取り組んだ事例を講師とともに振り返ることで、良かった点、改善すべき点が明確になり、より良い支援につながった。

・児童館派遣・支援事業

児童館、学童保育コーナーに講師や団体を派遣し、遊びや子育て支援のプログラムを実施することで、児童館における児童館活動の充実を支援した。

イ. 拠点児童館の支援

総合児童センターの療育指導事業と連携して、拠点児童館の子育て専門講座、保育士や施設職員等への指導者向け講座を実施した。また、発達がゆっくりな乳幼児親子の居場所【J-Cafe】に臨床心理士を派遣し、拠点児童館事業の充実を図った。

ウ. 子育てコーディネーターによる子育て支援

・子ども・子育てサポート事業

子育てコーディネーターを各区社協に配置し、地域や区役所と連携しながら、地域の子育て家庭の支援を行った。

・児童館・学童保育コーナー巡回相談と支援

市内すべての児童館・学童保育コーナーを子育てコーディネーターが訪問し、安全管理等適正な運営が為されるよう支援する児童館巡回指導を行った。

	巡回訪問
市社協運営児童館	74 回
他法人運営児童館	132 回
他法人運営児童館移管支援	18 回

・こどもの居場所づくり事業への支援

支援の必要な子どもにより一層の支援を届ける仕組みづくりのため、神戸市こどもの居場所づくり事業を実施する関係団体への支援を行った。

エ. 職員研修

児童館全体の質の向上を図るため、職員研修を実施した。

内容	回数	内容	回数
全市館長コーナー長・分室長研修	2	市民救命士講習	1
新任館長・コーナー長・分室長研修	3	特別支援研修個別支援研修	2
全市指導員研修	2	親子館事業研修	3
新任指導員研修	4	学童保育リーダー研修	1
次年度新規採用指導員事前研修	1	のびのびひろば職員研修	2
放課後児童支援員研修	2	区内指導員研修	2
新任放課後児童支援員研修	2	区内放課後児童支援員研修	2

オ. 登録センター＜放課後児童支援員・ひろば指導員＞

放課後児童支援員・ひろば指導員の登録受付を行った。

(ホームページからの閲覧も可) 登録者数 31 人 採用決定者数 10 人

8 時開設時勤務登録者数 0 人 採用決定者数 2 人

カ. 神戸市子ども会連合会事務局の運営

地域の子ども会活動の活性化を図るため事務局の運営を、各種事業の実施や指導者養成などの支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、各種イベントの実施や環境問題に対する啓発は十分にできなかった。各区子ども会連合会では、感染状況を見て実施できた行事もあった。全国及び指定都市や関係団体の主催するオンライン会議については、参加することができた。

【子ども会の組織状況】

神戸市子ども会連合会 (会員 : 9 区子ども会連合会)

	単位子ども会数	構成員数
令和 3 年度	135	6,810 人 (会員数 4,940 人、指導者等 1,870 人)
令和 2 年度	149	7,603 人 (会員数 5,505 人、指導者等 2,098 人)

【各種行事の実施】

事業名	実施場所	参加者
第 22 回神戸市子ども会 絵画コンクール	入賞作品展示 (花時計ギャラリー)	応募数 67 点 表彰式は中止

(3) 児童館の運営

厚生労働省による「児童館ガイドライン」を踏まえ、児童館運営の一層の充実を目指し、①児童健全育成事業の推進：遊びを通した子どもの発達の増進と安定した日常生活の支援、②子育て支援推進事業の推進：子育て家庭への支援、③地域連携の推進：地域とのネットワークづくり、を運営方針として取り組んだ。

児童館については、平成 30 年度から神戸市が順次指定管理者の公募を実施しており、令和 3 年度は中央区、兵庫区の公募に応募した。中央区で 4 館、兵庫区で 4 館の指定管理者に指定された。

	受託館数	延べ利用人数
R3 年度	児童館 46 館（内 拠点児童館 6 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 28 コーナー、 1 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 673,943 人 学童保育コーナー・分室 321,414 人
R2 年度	児童館 49 館（内 拠点児童館 7 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 31 コーナー、 3 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 623,550 人 学童保育コーナー・分室 360,532 人

①子ども育成事業

日々の遊びや様々な行事を通して、子どもの健全育成を図るとともに仲間づくりや心と体の育ちを支援した。また、楽しく魅力ある児童館になるよう児童館内外の環境整備に努め、子どもたちに豊かな遊びを提供した。

ア. 季節行事（夏まつり、クリスマス会等）

運動あそび（ドッジボール、卓球大会等）、ゲーム（オセロ、ボードゲーム等）大型遊具等を使った集団遊び（サーキット遊び等）、創作あそび（工作、ブロック、ビーズ等）、伝承あそび（こま、けん玉、なわとび、あやとり、お手玉、かるた等）、音楽あそび（楽器づくり、銭太鼓等）、読み聞かせ（絵本、紙芝居、エプロンシアター等）

イ. ふれあい交流事業

・高齢者とのふれあい交流事業

児童館を拠点として、児童と高齢者が地域ぐるみで交流することにより、児童に高齢者へのいたわりや敬愛の念、思いやりの心など、情操を高めることを目的に実施した。（37 館・2 コーナー）

・自然とのふれあい交流事業

環境や自然について楽しみながら学び、エコ（環境）活動を通して子どもたちが人と自然とのかわりについて、関心や理解を深める事業を実施した。（44 館・6 コーナー）

ウ. 点字図書館と児童館による福祉体験協働事業【再掲】

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。(2 館)

エ. 子どもの居場所づくり (社会福祉推進基金を活用)

ひとり親家庭や保護者の就労等により、子どもが一人で孤独に過ごすことがないように、児童館を活用して子どもの居場所づくりを実施した。

実施館：神戸諏訪山、中道

オ. 中高生の活動拠点事業

中高生の居場所として、フリースペースの提供、中高生事業等を実施した。

実施館：すずらんだい (中高生延べ利用人数 2,294 人)

②親子館事業

児童館で行う在宅育児家庭支援事業を総称して「親子館事業」とし仲間作りを図るとともに、親子の居場所となるよう取り組んだ。

名 称	対象者	内 容・実施回数	実施館数	
すこやかクラブ	幼児 (2～4 歳) とその保護者 (登録制)	親子遊び・保護者交流・子育て講座・避難訓練、週 1 回実施 ※託児あり、要年会費	46 館 (46 クラブ)	登録者数 417 組
なかよしひろば	0 歳から就学前乳幼児とその保護者 (自由参加)	親子あそび・親子の交流・子育て相談、週 3 回以上	46 館	延べ 参加組数 58,764 組

③放課後児童クラブ (学童保育)

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、子育てと仕事の両立支援や放課後における児童の健全育成を行った。

	実施箇所数	登録児童数 (R4.3 月)	年度平均登録数
児童館	43 館	2,290 人	59 人
学童保育コーナー・分室	28 コーナー1 分室	1,662 人	63 人
合計	72 箇所	3,952 人	60 人

ア. 8 時開設の実施 (72 施設)

イ. 児童入退室管理及び保護者等連絡システム導入 (72 施設)

ウ. 警報発表時の受け入れ実施

④放課後こどもひろば事業

放課後児童クラブ (学童保育) と神戸っ子のびのびひろば (放課後子供教室) を包括的に運営した。登録児童数 754 人

(人)

実施場所 (小学校)	灘	和田岬	鈴蘭台	横尾	高丸	長坂	合計
延べ参加児童数	2,336	1,933	3,057	3,256	3,635	3,420	17,637

⑤児童館子育て相談事業

育児に関する様々な問題について相談に応じた。(9,686件)

⑥拠点児童館事業

児童問題に関する専門性を有する児童館を「拠点児童館」と位置づけ、総合児童センターと連携した子育て専門講座や指導者向け講座を実施した。また、発達がゆっくりな子どもと保護者の支援等に取り組んだ。

ア. 総合児童センターと連携した子育て専門講座

講座	実施館	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座	魚崎・河原・有野・細田・落合・愛垂	74組
おねしょをとおした子育て講座	魚崎・愛垂	10人
学齢期子育て講座	有野・愛垂	11人

イ. 指導者向け講座

講座	実施館	参加者数
保育現場で活かす感覚運動あそび	細田	51人
保育現場で活かす インリアル・アプローチ	魚崎・河原・有野・落合	51人

ウ. 発達がゆっくりな子どもの居場所 (Jidoukan-cafe (ジェイカフェ))

発達がゆっくりな子どもと保護者が安心して過ごせる場の提供や、保護者同士の交流を図ることを目的として実施した。

エ. 区の特性に基づく事業

子育て世代の防災学習 (魚崎)

子どもヘルパーの育成 (河原)

みんなであそんで体力アップ (有野)

あおぞら☆きょてんじどうかん (細田)

おちあいファミリーひろば (落合)

地域ボランティアによる学習支援事業「すいすいサマースタディ」(愛垂)

⑦子育てコミュニティ育成事業 (児童館日曜日等開放)

地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する児童館の日曜日等の開放や地域子育て行事などの「子育てコミュニティ」事業の支援を行った。

(46館)

⑧その他の事業

児童館実習生の受け入れ

保育士、児童厚生1、2級指導員資格等を希望する学生の実習を受け入れ、福祉人材育成を行った。(6館、14人)

(4) ファミリー・サポート・センターの運営

子育て中の人仕事や急な用事などで子どもの世話ができない時に、地域の人応援する会員同士の相互援助活動を推進した。援助を行う預かり手を確保するための広報活動に努めたほか、援助者の資質向上を図る取り組みを行った。

① 会員登録状況

(単位：人)

会員/ 地区	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂区	西	市外	合計
依頼	871	596	556	194	264	98	306	556	412	12	3,865
協力	251	154	141	77	199	65	165	240	197	0	1,489
両方	46	56	41	13	29	7	31	36	38	0	297
合 計	1,168	806	738	284	492	170	502	832	647	12	5,651

② 会員活動内容

(単位：件)

保育施設・幼稚園の登園前・帰宅後の預かり	1,761
保育施設・幼稚園の送迎	1,588
子どもの習い事等の場合の援助	1,332
学校・養護学校等登校前の預かり	577
保護者等の外出の場合の預かり	519
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中の援助	387
学校の放課後の預かり	386
保育施設・学校等が休み時の援助	342
放課後児童クラブ開始前の預かり	137
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	136
冠婚葬祭、他の子どもの学校行事の場合の預かり	26
その他（上記いずれにも該当しない）	1,089
合 計	8,280

③ 活動内容

ア. 協力会員講習会

協力会員の増加を目指して講習会を開催した。

	開催日	参加者数(人)
第1回	4月27日、28日	新型コロナにより中止
第2回	5月27日、28日	19
第3回	6月15日、16日	12
第4回	7月14日、15日	11
第5回	9月14日、15日	20
第6回	10月19日、20日	12
第7回	11月25日、26日	12
第8回	12月21日、22日	8
		94

イ.フォローアップ講習会

協力会員の資質向上と安全で楽しいサポート活動が出来るよう、フォローアップ講習会を開催した。

開催日	内 容	参加者数(人)
9月8日	子ども知る手がかかり（障がい児の理解と対応）	19
12月7日	家庭で子どもを見守るために (子どもの病気と怪我の対応)	13
計		32

ウ.子どもの救急救命講習（年2回 20人）※緊急事態宣言発令の為1回中止

安全・安心な援助活動を行うために子どもに特化した救急救命講習を実施した。

エ.依頼会員入会説明会

依頼会員になるための説明会をニーズに合わせた形で実施した。

集団説明会 33回 516人

個人説明会 4回 5人

灘区説明会 1回 17人（灘区役所） 【新規】

オンライン説明会 1回 10人 【新規】

オ.会員交流会

会員相互の交流を目的に地域リーダーの企画・運営による交流会を実施した。

開催日	内 容	参加者数(人)
11月9日	シェイプアップ体操&チェアーエクササイズ	18

カ.地域リーダーによる活動

地域リーダー連絡会(年6回開催)、会員交流会の企画運営、出張説明会やセンター主催行事のサポートを行った。

キ.広報活動

- ・ファミリー・サポート・センター通信発行 年2回
- ・協力会員講習会チラシ、依頼会員入会説明会チラシの配架
- ・広報紙こうべへ講習会案内記事掲載 年7回
- ・神戸市社協情報誌「きずな KOBE 23号」への掲載
- ・宣伝用リーフレット、ポスター等による広報
- ・ホームページでの情報発信
- ・コミスタこうべ展示スペースの活用
- ・婦人大学受講者向けに制度の説明及び子どもと遊びの講義

ク.その他の取組み

- ・灘区拠点児童館（河原児童館）及び灘区社会福祉協議会との連携により、灘区民を優先対象とした入会説明会を実施
- ・北区及び西区在住及び出産等により入会説明会場への来場ができない方を対象として、Zoomを活用したオンライン説明会を実施
- ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

地域福祉施設の管理運営

市民の福祉活動推進拠点である総合福祉センター、こうべ市民福祉交流センターの管理運営を行った。

(1) 総合福祉センターの管理運営

① 貸会議室利用状況

室 名	第 1 会議室	第 2 会議室	第 3 会議室	第 4 会議室	第 5 会議室	合 計
利用件数	533 件	449 件	527 件	365 件	519 件	2,393 件

② 社会福祉研修室利用状況

室 名	第 1 研修室	第 2 研修室	第 3 研修室	第 4 研修室	第 5 研修室	合 計
利用件数	433 件	483 件	341 件	399 件	533 件	2,189 件

③ 障がい者福祉センター会議室等利用状況

室 名	A 会議室	B 会議室	C 会議室	体育室	合 計
利用件数	360 件	388 件	493 件	309 件	1,550 件

④ 障がい者福祉センター駐車場利用状況

利用台数	4,374 台
------	---------

③、④は障害者福祉センターの委託業務

(2) こうべ市民福祉交流センターの管理運営

貸室利用状況

室 名	件 数	室 名	件 数
201 教室	271 件	401 研修室	—
301 教室	219 件	402 研修室	101 件
302 教室	328 件	403 研修室	—
303 教室	369 件	501 研修室	299 件
304 教室	—	502 研修室	389 件
介護実習室	131 件	503 研修室	297 件
調理実習室	41 件	合 計	2,445 件

※304・401・403 教室は貸室利用なし

神戸市介護サービス協会事務局の受託

(1) 協会の概要

介護保険制度に関係する団体が連携し、介護保険に関係する情報共有や各分野に共通する課題検討、サービスの質の向上への取り組みを行った。

(2) 構成団体（7 団体）

神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市民間病院協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会、神戸市医師会、神戸市歯科医師会、神戸市薬剤師会

(2) 協力団体（4 団体）

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会神戸ブロック、神戸市ケアマネジャー連絡会、神戸市リハ職種地域支援協議会、兵庫県栄養士会

(4) 主な事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンライン会議、研修会等の開催を促進した。

① 総会、理事会、運営委員会等開催

総会（1回）、理事会（2回）、運営委員会（5回）、神戸市との意見交換会（2回）

② 部会開催

居宅介護支援サービス部会（6回）、在宅サービス部会（6回）、施設サービス部会（6回）、施設サービス部会小委員会（2回）

③ 高齢者介護士委員会等開催

神戸市高齢者介護士委員会（3回）、実務者会（3回）

ア. 研修会

全体研修会（3回・オンライン開催/ハイブリット開催）、サービス提供責任者研修会（3日コース×1回）、口腔ケア研修会（1回・オンライン開催）、オンラインセミナーシリーズ（3回シリーズ×5回）

イ. 調査・研究

介護現場における離職対策についてのアンケート調査

ウ. 機関紙発行（2回）及びホームページの運営、公式メールアカウント、メールマガジン

エ. 神戸市高齢者介護士講習会及び認定試験の実施（講習会（4回）、認定試験（1回））

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

(1) 区社会福祉協議会との連携・協働

区社協との連携のもとで、ふれあいのまちづくり協議会をはじめとした地域団体や専門機関、区行政と円滑に連携・協働を進め、小地域単位で住民同士が支え合える仕組みづくりに取り組んだ。

各区社協においては、各ワーカーや事業の担当者間で、情報や課題を共有し、各々の視点を活かした連携・協働を行い、コロナ禍で複雑・多様化した課題に対し、区社協の総合力で事業を展開した。

①地域福祉部会の運営

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、区社協代表者等による地域福祉部会を書面にて開催し、各区の特色に応じて実施している事業等の情報共有、事業を展開する上での課題についての検討や意見交換を行った。

②区社協の組織体制に合わせた連絡会等の開催

区社協との連携を深め、市社協・区社協が行う地域福祉事業を円滑に進めるため、神戸市も含めた連絡会を開催し、情報交換と課題の協議を行った。

③成年後見制度の利用手続き相談室の運営

相談室の確保や相談者の受付け、広報など、区社協の運営協力を得て「成年後見制度の利用手続き相談室」を市内全区で開設し、住民に身近な窓口での相談機能の充実を図った。

④地域福祉推進を目的とする各区社協事業への助成

「地域福祉推進基金」を活用し、「だれもが住みなれた地域で安心して心豊かに暮らせるまちづくり」を目標に、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業及び社会福祉法改正に伴う、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った（9区計：9,531,053円）

【各区社協助成事業一覧】

区	事業名	助成額 (うち法人基盤強化分)
東灘	「えんがわ」事業、なかよしキッズ、地域福祉フォーラム、地域の心と心を結ぶ「おむすびカレンダー事業」	810,000円
灘	シルバーパワーで地域を元気にする事業、『終活』からはじまる暮らしのデッサン事業、地域子育て支援事業ベビーキャパソン、ボランティアフェスティバル	1,380,009円 (1,000,000円)
中央	子育て世帯包括支援事業、オンラインでつながろう！	700,000円
兵庫	つどいの場活性化事業、やさしさと思いやり教育推進事業、地域貢献的居場所づくり、区社協広報誌・さんぽみち	501,356円
北	ひきこもり・不登校の人たちの居場所づくり事業、地域子育てパワーアップ事業、支え合いのまちづくり事業	459,000円

長田	地域活動への講師派遣助成事業、コロナ禍での地域福祉活動の紹介と社協の見える化の推進、障がい者福祉サービス事業等との連携強化事業	1,033,863 円
須磨	未来につなぐ福祉のこころ育成事業、区社協広報活動及び地域団体の広報活動支援	1,025,092 円 (178,891 円)
垂水	子育てサークルへの講師等派遣事業、孫育て講座、冊子「＃垂水区社協☆情報発信！！」作成、終活セミナー開催事業、区社協お役立ちガイド冊子の発行、LINE でつながりづくり出前講座	621,733 円
西	あんしん見守りカレンダーの配布、「KWN(西区自立支援協議会)」と連携した西区健康・福祉フェア、神戸市西区授産施設製品等販売促進支援事業	3,015,949 円 (2,000,000 円)

⑤区社協実施事業への支援

地域における住民相互の助け合いや交流を促進するため、住民主体のコミュニティづくりや、福祉活動を行うボランティアの育成を進めるなど、区社協で実施する事業や、区ボランティアセンターの運営などに対して助成した。

⑥区社協役員協議会の開催

市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換などを行うことにより、“こうべ”の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性について、共通認識を深めた。

日 時：令和3年11月30日（火）

場 所：神戸市勤労会館7階大ホール

内 容：基調講演「孤立させない地域づくり ～誰一人も取り残さないために～」

講 師：西垣 千春氏（神戸学院大学 教授）

パネリスト：コーディネーター 西垣 千春氏

- ・NPO 法人助成と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ WACCA 茂木 美和子氏
- ・多文化共生センターひょうご 代表 北村 広美氏
- ・北区社会福祉協議会 NW 九須 かおり氏
- ・北区社会福祉協議会 北神事務所 NW 木元 麻里子氏

参加者：80名

(2)地域支え合い活動推進事業の推進

サービス提供主体の多様化と地域資源の充実に向けた「生活支援体制整備事業」を全市で実施した。

①生活支援コーディネーターの配置

区社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域の関係団体のネットワークによる課題や資源の情報共有、地域に不足するサービスの立ち上げを支援した。

生活支援コーディネーター連絡会を月1回開催し、地域支え合い活動推進事業の進捗状況や地域福祉活動推進のための取り組みに関する情報交換と課題の協議等を行った。

さらに「第1層生活支援コーディネーターの役割・視点のポイント」をテーマとし

た研修の開催や、生活支援コーディネーターの情報交換会開催に向けた協議の場を京都市社協・大阪市社協・堺市社協と Zoom で共催実施し、生活支援コーディネーターの資質向上につながった。

②協議体機能を有する会議等の運営

協議体機能を有する会議等を区社協の生活支援コーディネーターが中心になって、高齢者の生活支援に関わる住民組織・事業者・NPO・社会福祉法人・行政等の地域の関係団体のネットワークづくりと新たな資源開発の場として運営し、高齢者の生活ニーズの現状と地域資源の情報等を共有し、地域で不足するサービスの立ち上げ支援、担い手不足等の課題に対して共通認識を持った。(全市開催実績 7回)

③つどいの場支援事業の推進

コミュニティサポートグループ育成支援事業から移行したつどいの場支援事業を本格化させた。地域住民などによって自主的に運営され、身近で高齢者のだれもが自由に参加できる、「つどいの場」を充実させるため、区社協の生活支援コーディネーターを中心に、運営に関する助言や情報提供、活動について現状・課題等の把握を行い、つどいの場が継続するよう支援を行った。

(申請 169 グループ 内コロナ禍の影響で中止 16 グループ)

(3)地域資源情報(つどいの場・通いの場)の集約

地域住民やボランティアによるつどいの場や通いの場の活動等の地域資源を区社協・あんしんすこやかセンターと連携しながら全市的に把握し、一元管理するための集約・更新を継続的に行った。(全市合計：1,600 箇所<R4. 3. 31 最新>)

(4) 重層的な見守りネットワーク構築の推進

ひとり暮らしの高齢者等を対象に見守り活動、閉じこもり防止活動や日常生活支援活動について、きめ細かな支援を行うとともに、関係者の協力のもと全市的な支え合い活動を支援した。主な取り組みとして、各区における民生委員・児童委員の協力による「高齢者見守り調査」や見守り活動の支援、また、ボランティアによる友愛訪問活動(全市：1,227 グループ)やふれあい給食活動(全市：244 グループ)、テレホンサポート事業(全市ボランティア数：65 名)を実施し、住民による見守り活動を支援した。

新型コロナウイルスの影響により、活動が制限される中、手紙や電話、LINE 等による見守り活動を行い、ふれあい給食活動においては、高齢者宅への配食や、高齢者が会場に弁当等を受け取りに来る等の代替的な活動への転換を支援した。

区社協が本事業の調整及び各あんしんすこやかセンターへの支援など事業推進の中心的な役割を担っており、区社協を支援するための推進方策の検討や活動費助成・事業費の補助を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

(1) 事業内容

これまでの民生委員児童委員活動の推進に加え、新たに民生委員児童委員協議会の運営を担い、区民児協の連絡調整、民生委員・児童委員の資質向上のための研修会等の開催、関係機関との連絡調整、全国会議等への参加調整、表彰及び慶弔に関する事務等を行った。

また互助共済事業を行い、会員に対して共済給付を行った。

①常任理事会（民生委員児童委員部会）等の開催

毎月1回 第3木曜日開催（11回）、理事会2回（書面決議）

②全国会議等への参加調整

指定都市社協・民児連連絡協議会 書面

近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議（8名）

全国民生委員児童委員大会（2名）

全国児童委員・主任児童委員活動研修会（160名）

民生委員・児童委員リーダー研修会（139名）

全国民生委員指導者研修会（2名）

③表彰及び慶弔に関する事務

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（2団体および186名）

全国社会福祉協議会会長表彰（6名）

④各種民生委員児童委員研修会等の開催と参加調整

物故民生委員・児童委員顕彰碑合祀祭、社会福祉大会、地区民生委員児童委員協議会会長研修会（中止）等

⑤民生委員共済給付金の交付

区分	死亡	配偶者死亡	傷病	配偶偶者傷	災害		退任				旧会員死亡			合計
					全焼・全壊・流出	半焼・半壊	10年以上	6年以上10年未満	3年以上6年未満	3年未満	15年以上	10年以上	3年以上	
件数	1	13	27	10	0	0	10	4	11	4	17	1	2	100
金額 (千円)	30	130	189	50	0	0	100	32	66	20	340	10	10	977

⑥ICT 化の推進

全地区民児協会長（174地区）へのタブレット配布に先駆け、9名の常任理事にタブレットの配布とタブレットの講習会を開催した。

(2) 民生委員・児童委員活動の推進

社会福祉協議会として民生委員・児童委員活動を推進するため以下の事業を実施した。

①地区民生委員児童委員協議会会長研修会（中止）

②民生委員互助事業の実施

民生委員活動の振興をはかることを目的に、全国社会福祉協議会の実施する民生

委員互助事業について、弔慰、見舞・退任慰労等に関する給付事務を行った。

区分	公務死亡	一般死亡	配偶者死亡	公務傷害疾病	一般疾病		災害		退任			合計
					2 カ 月 以 上	2 カ 月 未 満	全 壊 ・ 大 規 模 半 壊	半 壊	15 年 以 上	9 年 以 上 15 年 未 満	3 年 以 上 6 年 未 満	
件数	0	1	13	2	15	6	0	0	8	2	16	63
金額 (千円)	0	30	195	60	150	48	0	0	56	10	48	597

福祉団体、NPO やボランティアグループへの助成

①善意銀行の運営

金銭、物品を預託として善意銀行で受け入れ、福祉活動を行っている団体・施設に払い出しを行った。

ア金銭預託・払出実績

預託 件数	預託金額	払出先	払出 件数	払出金額
29 件	1,310,966 円	児童福祉の事業を行う団体	1 件	50,000 円
		障害者福祉の事業を行う団体	1 件	60,000 円
		児童福祉施設等入所児童へ就学助成	7 件	2,100,000 円

イ物品預託・払出実績

預託物品	預託数量	払出先	数 量
野球観戦チケット	11 冊	児童福祉関連施設	11 冊
車いす	6 台	高齢者福祉関連施設	4 台
		地域福祉関連団体	2 台
靴下	2,800 足	児童福祉関連施設	2,120 足
		地域福祉関連団体	200 足
		更生福祉施設	480 足
靴	635 足	地域福祉関連団体・施設、 障害者福祉関連施設	635 足
スポーツウェア他	2,100 点	児童福祉関連施設、 障害者福祉関連	2,100 点
衣類	30 着	地域福祉関連施設	30 着
文房具他	11,205 点	児童福祉関連施設 地域福祉関連団体	11,205 点
フェイスシールド	100 枚	障害者福祉関連団体	100 枚

食 品	14 団体 10,000 点	地域福祉関連団体、 児童福祉関連施設、教育機関	10,000 点
パソコン周辺機器	20 台	地域福祉関連団体	20 台

民間社会福祉施設の振興

民間社会福祉施設の職員処遇の向上と経営安定を図るため、退職手当共済及び福利厚生事業を実施するとともに、施設行事・運営の支援を行った。また、施設部会において、社会福祉法の改正、社会福祉法人の公益的活動等、新たな国の方針に対応した社会福祉法人・社会福祉施設運営の課題について協議を行った。

(1) 施設部会の開催

神戸市への予算要望などを通じて民間社会福祉施設の諸課題に取り組んだ。

(2) 人材確保・定着のための支援

①「民間社会福祉施設職員退職手当共済事業」の実施

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

令和3年度から、①退職手当給付金額の計算方法を前年度末までの掛金累計額に年2%の複利をつける計算へ変更、②退職手当給付金の支払い要件の加入期間を変更、③事務負担金の創設、④目標とする運用利率を3.1%から2.0%に引き下げるといった制度改定を行った。

その結果、運用が好調であったことも手伝って、令和2年度財政再計算では2億2000万円の余剰が出た。さらに安定した運営を行えるようになるまで、この度の改定内容を維持する。

区 分	令和3年度	令和2年度
年度末加入者	9,801 人	9,600 人
退職者数	1,258 人	1,231 人
給付金	613,105,016 円	628,798,068 円

②「民間社会福祉事業職員福利厚生事業」の実施

国内研修費を各種別施設連盟に助成し、社会福祉士・介護福祉士等の国家試験合格者に祝金を給付し、勤続15年の職員に永年勤続記念品を贈呈した。

また、家庭用常備薬や自動車保険・火災保険等の集団扱制度の斡旋を実施した。

区 分	令和3年度	令和2年度
国内研修費	408,888 円	450,000 円
合格祝金	564,000 円(148 人)	432,000 円(144 人)
永年勤続記念品	1,210,440 円(147 件)	1,001,440 円(122 件)
合 計	2,183,328 円	1,883,440 円

(3) 民間社会福祉施設職員激励会

施設に勤務する職員の日頃の労をねぎらい勤続5年の市長感謝状を贈呈するための激励会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。

(4) 施設運営助成の実施

施設賠償責任保険料の助成 441 件、各連盟実施行事・研修等への助成 2 件

(5) 新春福祉関係者のつどい

市内の福祉施設や福祉団体の関係者が一堂に会し交流と親睦を深めるための新春福祉関係者のつどいについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、8 月時点で中止を決定した。

多様な福祉活動参加の推進

(1) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動支援

各区の社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動の活性化を図るため、各社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の事務局（区社協）で、内容や進め方、方向性等について共有・検討した。

(2) 神戸市社会福祉大会の開催

市民の福祉推進の決意を新たにするとともに、社会福祉事業の協力者、功労者の功績を顕彰する社会福祉大会について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大会の開催を中止とした。なお、協力者・功労者として推薦のあった方について、推薦委員会により決定し、感謝状を郵送した。

理事長感謝状受賞者	社会福祉事業協力者	金品の寄贈 5 人、19 団体
		奉仕活動 52 人、48 団体
	永年勤続功労者	267 人

(3) 共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の推進

「共同募金運動」及び「歳末たすけあい募金運動」の推進を通じて福祉活動の基盤づくりに努めた。

また 1 月から 3 月は運動拡大期間とし、新たな手法による募金や寄付者の開拓に向けた募金活動として、市内 9 区が 10 月から 3 月まで募金運動を実施した。

ア. 共同募金活動（期間 令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

区別	目 標 額	実 績 額※	区別	目 標 額	実 績 額※
東灘	6,290,000 円	5,888,271 円	長田	4,315,000 円	4,537,563 円
灘	7,328,000 円	6,621,337 円	須磨	4,825,000 円	4,560,885 円
中央	8,681,000 円	6,964,368 円	垂水	4,828,000 円	5,135,667 円
兵庫	7,200,000 円	6,791,259 円	西	5,558,000 円	6,216,807 円
北	7,089,000 円	6,527,313 円	合計	56,114,000 円	53,243,470 円

※上記実績額のうち拡大期間（令和 4 年 1 月～3 月）の実績額

区別	実 績 額※	区別	実 績 額	区別	実 績 額
東灘	0 円	兵庫	755,777 円	須磨	13,233 円
灘	381,856 円	北	160,376 円	垂水	434,393 円
中央	893,088 円	長田	23,453 円	西	320,036 円
				合計	2,982,212 円

イ. 歳末たすけあい募金（期間 令和３年１２月１日～１２月３１日）

区別	目 標 額	実 績 額	区別	目 標 額	実 績 額
東灘	6,000,000 円	6,480,955 円	長田	3,200,000 円	3,321,045 円
灘	2,333,000 円	2,686,042 円	須磨	1,575,000 円	1,159,715 円
中央	3,300,000 円	3,675,087 円	垂水	2,322,000 円	2,160,936 円
兵庫	2,000,000 円	1,656,182 円	西	1,630,000 円	1,630,000 円
北	5,224,000 円	4,068,543 円	合計	27,584,000 円	26,838,505 円

活動を支える体制の強化

(1) 理事会・評議員会等の運営

会議名称	期 日	主 な 議 題
理事会	4 月 1 日 決議省略	専務理事の選定について
	7 月 12 日	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について、定時評議員会の招集と上程議案について、令和 2 年度事業報告及び決算について
	7 月 27 日 決議省略	理事長の選定について、副理事長の選定について、専務理事の選定について、評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について
	12 月 13 日	役員賠償責任保険の締結について、職務執行状況の報告について
	3 月 11 日	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について、R3 年度補正予算について、R4 年度事業計画及び予算について、R4 年度契約の締結について、令和 3 年度第 2 回評議員会の招集と上程議案について
	3 月 18 日 決議省略	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について、令和 3 年度第 2 回評議員会の招集と上程議案について、評議員選任・解任委員の選任について
	3 月 30 日 決議省略	専務理事の選定について
評議員会	7 月 27 日	理事の選任について、監事の選任について、令和 2 年度事業報告並びに決算の承認について
	3 月 29 日	定款の変更について、令和 3 年度補正予算について、令和 4 年度事業計画及び予算について
監事監査	7 月 2 日 7 月 7 日	令和 3 年度事業報告・決算に関する監査
	12 月 7 日	会計監査人との意見交換
評議員選任・解任委員会	7 月 15 日	評議員の選任について
	8 月 13 日	評議員の選任について
	3 月 25 日	評議員の選任について

(2) 部会・委員会の開催

会議名称	期 日	主 な 議 題
民生委員児童委員部会	11 回開催	民生委員・児童委員による地域福祉活動の推進
地域福祉部会	書面決裁	R4 神戸市社会福祉協議会事業計画区社協助成申請の審議、地域福祉推進基金事業予算など
児童福祉部会	書面決裁	R2 事業報告・決算
	書面決裁	R4 児童福祉基金事業計画・予算、R4 助成申請の審議など
障害者福祉部会	書面決裁	R2 事業報告・決算
	書面決裁	R4 障害者福祉基金事業計画・予算、R4 助成申請の審議など
施設部会	5 月 25 日	部会員の交代、R2 事業報告、R4 年度神戸市予算に対する予算要望、R3 ワークキャンプ、兵庫県社会福祉協議会の理事推薦
	8 月 6 日	大都市社会福祉施設協議会、新春福祉関係者のつどい、R3 ワークキャンプ、R4 予算要望
	12 月 10 日	大都市社会福祉施設協議会
	3 月 8 日	R3 施設部会事業報告、R4 事業計画等、福祉体験学習事業(ワークキャンプ)、民間社会福祉施設職員激励会の方針
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済・福利厚生事業運営委員会	5 月 25 日	委員の交代、副委員長を選出、R2 運用実績、R2 決算報告、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛却
	8 月 6 日	委員の交代、資産運用検討委員会報告、四半期運用実績、R2 財政決算報告、書類への押印の見直し、事務費負担金の支出の取り扱い
	12 月 10 日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛却、
	3 月 8 日	R3 決算見込、R3 補正予算、R4 事業計画・予算、委員の選出、資産運用検討委員会報告、R3 実施状況及び決算見込、信託財産抛却
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済資産運用検討委員会	5 月 14 日	委員交代、副委員長の選出、四半期運用実績、運営委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛却
	7 月 21 日	四半期運用実績、R2 財政決算、運営委員会報告
	11 月 26 日	四半期運用実績、運営委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛却
	2 月 21 日	四半期運用実績、運営委員会報告、R4 事業計画、信託財産抛却

会議名称	期 日	主 な 議 題
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会 社会福祉施設従事者研修部 会	3 月 1 日	R1 事業実施状況報告、R2 事業計画
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会	11 月 27 日	R1 事業実施状況報告、R2 事業計画
こうべ安心サポート委員会	8 月 20 日	専門部会の活動報告、こうべ安心サポートセンタ ー・成年後見支援センターの活動状況報告など
こうべ安心サポート委員会 安心生活支援部会・成年後 見判定部会	11 回開催	成年後見の市長申立てに関する助言
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 事業運用審査委員会	6 回開催	福祉サービス利用援助事業に関する審議・助言 (契約締結審査会としても位置付け)
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会監査委員 会	6 月 23 日	福祉サービス利用援助事業・法人後見事業の利用 者の財産管理に関する監査
こうべ安心サポート委員会 市民後見部会	6 回開催	成年後見支援センターの運営、 市民後見人養成研修等に関する助言
こうべ安心サポート委員会 市民後見部会 受任調整会 議	3 回開催	市民後見人候補者名簿登録者の後見人候補者の推 薦に関する審議
総合児童センター運営委員 会	11 月 16 日	R2 年度事業報告、R3 年度事業計画、総合児童セ ンター移転
総合児童センター 療育指導部会	10 月 26 日	R2 年度事業報告、R3 年度事業計画、総合児童セ ンター移転
総合児童センター 健全育成部会	10 月 26 日	R2 年度事業報告、R3 年度事業計画、総合児童セ ンター移転
児童館 運営委員会	5 月～7 月	H30 事業報告、R1 年事業計画
こうべ障がい者芸術フェス タ実行委員会	6 月 書面決議	委員選任、R2 決算報告、R3 予算および実施計画
	3月 書 面 決 議	R3 実施報告および決算見込み、R4 予算案および 実施計画

こうべ障害者音楽フェア 実行委員会	6月書面決議	委員選任、R2 決算報告、R3 予算および実施計画
	3月書面決議	R3 実施報告および決算見込み、R4 予算案および 実施計画
生駒温子児童福祉事業助成 審査委員会	3月2日	R4 公募助成 申請審議
ボランティア情報センター 運営委員会	書面決議	ボランティア情報センターの R3 事業報告案・R4 事業計画案、ボランティア基金、市社協ボランテ ィア助成に関すること等

(3) 市と区の社協相互連携による機能充実

「市・区社協事業推進・改善検討会議」を開催し、職員採用、人材育成、政策提言・組織改編、児童館の運営について検討を行った。令和3年度は市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、現在の法人運営に関する課題を検討し、令和4年度以降の「(仮称)市・区社協組織体制あり方検討会」の設置に関する提案を行った。

(4) 新しい時代に適応した人材の育成

①職員の採用

令和3年度は、早期により良い人材を確保するため、採用活動改善試行チームによる新卒者を対象とした採用試験（夏募集）を実施し、応募者71名から主事3名を採用した。

また、定期採用試験（秋募集）においても、応募者の当会への理解を深めることを目的とした採用説明会を実施し、応募者165名から主事5名（嘱託職員からの登用者1名含む）を採用した。

その他、在宅福祉センターおよび安心サポートセンターで従事する職員の人材不足に対応するため、主事を3名採用した。

②職員の育成

新型コロナウイルスの影響で、当会で実施する研修や例年開催される研修が延期・中止となった。そのため、令和3年度採用職員に対しては、人材育成改善施行チームが令和3年9月に仲間づくり（離職防止）を目的とした研修を行った。

また採用2年目・3年目職員を対象に、勤続11年以上の職員から学び、組織を越えたつながりづくりを目的とする全職員参加型OJT研修「人を識り、仕事を知る」を行った。

ア．人事評価制度の実施職員がその職務を遂行するにあたり発揮した能力や挙げた業績を公正に評価し、人事管理を行うことにより、職務成果の向上につなげることを目的に実施した。

イ．階層別研修

新規採用者研修（規模を縮小して実施）・

③有期雇用者の無期転換

嘱託職員、パートタイム職員、臨時職員のうち、雇用期間5年を超える職員のうち、

希望する職員を雇用期間の定めのない無期雇用職員に転換する無期転換制度を引き続き運営し、長期に勤務する職員がより安定して勤務できる職場の環境整備に努めた。

④適正な業務環境の整備、働き方改革の推進、コンプライアンスの徹底等

文書分類表による文書管理の適正化、時間外労働や年次有給休暇の管理方法の整備などの働き方改革の推進、個人情報の保護などのコンプライアンスの徹底に努めた。

(5)職員災害支援研修の実施

災害ボランティアセンターの運営や市外被災地への応援派遣に関するスキルアップを目的に、本会職員を対象とした研修を実施した。

①第1回

日 時：令和3年度6月14日（月） 16：00～17：30

テーマ：①社会福祉協議会が災害支援に取り組む意義と価値について

②遠方の被災地へ支援に向かうボランティアへの支援制度について

講 師：長野県社会福祉協議会 総務企画部 主任 山崎博之 氏

参 加：37人

②第2回

日 時：令和3年7月21日（水） 16：00～17：30

テーマ：災害ボランティアセンターの開設・運営について

参 加：34人

③第3回

日 時：令和3年8月24日（火） 16：00～17：30

テーマ：災害時における被災地への応援派遣について

講 師：Office SONOZAKI 代表 園崎 秀治 氏

参 加：33人